ロ
ろ
下

△若菜下

九、以哥詞名、源四十一文又四十六七文アリ

心上本ノホソウケテ云リ
ものとくちわといふへどうれしくしいうれしぞ
やうぞうくこしとかがを文ラム
うとうぐさあうそいうぐさぐさんうう人
づてうぐひしとこのこともの沼ひまゆう世を
あんやしこうよつけてもあるこうそいあ
くうぐうしとうひまゆう院のれうあ面ゆ
心やをひうてう三月ごうれロし人ごの
まうう新てうかまゆうくさぐうしけ
れどそのあうれ京の文をもうてやうぐさ
むしとうて新うの度ごのれうゆ二月とは

ノリウ三月トウこリ
ニテ
馬ヲ走セテウイル
ヲノリウト云五月
ミアルヲヲ二月ニテ延

文明文庫

南田氏藏書

弘法為雲の流
四月十八又延引
一ト井アル（こ
沙汰こ一ト井八弓井ル）

ケフノミト春シ思ヒ時ノ
ニコトヤマキ花ノトケカモ

三ツ子

とりて清らかに月のあしたにはし
とんぐこそよけれ（原）よろしうまとめえぐべしと
よつて例のたびひ（年号）たかの大ぬさうは
（主人）かしひよて多く（中世将ノコトバ）ぬぐ（多）ひうちかぐいど
こうしてこちらとこのれしうどうちう（歩）
れをぐれうと上をたあわれしぐやし出てい
をを（後）殿上ぐべだしつきぐをきうぐわい（細）
（前）まへうへの心こ（細）取（細方ト云リ）対座ニスキトリテツガウし
まくよりふまうらしわきて言や
（清尽ノ心ヲ）
あくうくしくうぐうく多風よ（原）れげ
いとぐうとやをうしで人ぐいくをひ

騎射ニ射シテ

楚養由基去柳
葉百歩百発百度
中見者数千日
善射ト

すきれてえんなうけぬごもこのくいか
（勝負）
くぐの心ぐうとうしぬぐきと柳の葉とれく
（トキドモガ）（養由ニスメハ）
ぐいかそけぐこきいぐのうけうわてい
（ソヲ心トスレリ無心トカヤ）
うしうえんうりやそうこうをつき
（大ヤウナルシ）（大ウ五ヤ）
だとそいどまもあうて大わうらうわうで
（ヤ）
そのうれよ、ぬつ者（物）人うけよふあて
けくぬしあへぐうれうくくこ心うれうれぬよ
（多）
しくけてぐいとく（物）きことうくうぐ
うくくきよやあんと秋
（紅）
うくくきいぐくぐきよやあんと秋
（紅）
えんこけつきわる心ぬうをけ（物）えぬ遅れ中いと
（紅）
しまうふうひと（エビ）ぬ中ま心うく

て会ぜうしぐもあるきことうてしぬこと
くすまぎうることあんとぶとあくえて
ぬるうづうしもあぐぐとうをうよけめそう
くゆるくゆくうう心ちあうべきゆうものめな
らんうてぐうよりうぐくよてうんけううぐ
さううまいいすぐとうめとまうてあ
けあうこうくゐ俗ていうれあうー猫をぐ
よえてうれうふうとうこうらふべくいあるよ
どうこうこうびーこうかぐうあうもかけ
ゐうとうよめぐうあーういうてういぬそこい
ぐんとうれうえぐうこうこうとうりうあれの

ぬ方よ給うてぬ汎かぐあまうさうー心
うういとあくふうくぐうこうれうてあ
うてまあよんて汎こともあーうれうふう
いうぐうよけごとくうひうりとゆうよ
あやーくいあうーわざぐうーというすが
よかあばゆれぐあ場うけよまあうう秋心う
あうくもこひうまれぐ去ぐよ給うぬうて
なううよいぬつる前うんーとめうぐめて
こううよ自ひやうよかどいあうぬれうちか
れどうさぐうのれてうこあういとうとうてゆ
てよあ俗めーくかーあそうれれ孫こ

れたまくしけきつれうらうらうごもの
あぐよあぐれて文も書れうがいとおう
てげうてありうくとうらうよまうぐ出てうれ
じ●い糸院の姫文のれうこよ作う猫そいと
さしねやうかううかしておうう作うだと
げうよんこ法へうとけいし法へぐ猫わぎ
とらうくきさ法れ心うてくうくぐこ法
法うう猫のうてのまうこぐへふさ法うてうん
作うしおうぐやうかわうれど心かうく
へうれうういかやうくあつうさぬうあん
作うあぐ山うく文さうぐうう実しあ法
実しうときうてこうわつぐのれうこうう作う
へてあうこ法れうれぐ糸うせ法てうげうと
うけううげうう猫あうううと人ぐけうぞ
ふと思つ書いうぐうんと文しうわうこれ
うきとこうて日ごうへて糸うぐうわ
うこうううう朱雀院のうわうて文
けうこ法れううば山ぞこうとうれあうてこ
文け文うこうこうう心うせあうこうれこ琴
とあどうこ文へあうこ法れうて猫だあうこうつど
ひ作うこういつこのこうこ法へくこと法うてん
つけ法へういとうらうこ文へうこうこうで

けくのうち、なもげよかしさうに
りうのんまぐうつさいえうれぬく
とうるやうんてあうに猫ことよをそぞ
しとの行へぐうれいきうわさまへ心したさ
くはぬぬるれどそのゆうも心うこさい
をのづうあまうめはんうおとすてに
さうごもさうぬやうとこれしそうれそう
のづうんとり行心のうちにあがうらよおこ
ごものうくうれく見ゆつのようれとおひこ
とてうもあうちらうせはあけうんてぐ
孫これうづさをうてあぞやーうい行く

げうとうわうしゆもとうとうれてこしそれ
ごさねのそそよまうつ
とまやうけうとうとこうとうあ
てううくうちうよきて猫
くとてうらうげ
うそしゆむれとはうまう
こいうぶうくのうことたおせばれよ
はのそうく孫ううんうれし音の笑うやと
孫をこうてのはぐいよくうらうげよあく
とふとこうようあがあはうてごうちあぐ
くはやうく猫のはうくうれうかう

ふりのこいれれとぬ心よとこゞゐ久り文ゝり
やそうも面てせぞうこゆてうれとゝて
い行ハ乃大ゐ夜の小ゐ大ゐ夜の月道ゝりも
大大ゐのゐとゞゐ久ゐしゝのまゝようとゝ
ぞこ雪行て心ゞへのゝどくゝくゞちか
くゝゝそゝゝゐゝゐんゝれけゞゝこ
まゝやゝよゝゝゞてゝゝゝ

てしくもうつろひけるつゆ世人もをもくる
ものしらず大ぬしもさうせのおりしるすべ
きことなくしらるしぐ（枕詞）ゆめのわかれをかぞへそ
へくいかゝ人ぞ（枕詞）ものしりくしとよみてあは
れどえしもさぐめぞ物つきとさもけ
きこゆまでしとえもべうれど猫よりはそ（物枕詞）
かゝるまうやうけてもこひのぬぞたち
しらうらら（枕詞）あのいやてくるとひがる
へそあるもれあるさ海のもすぞそ（進退ラ）
ら語るとは（枕詞）あしきめよえてまも毋
れいあるをゝ心つけてゆくこひて今め（枕詞）
きうれ心ざ海うぞめ（ト）ゆ（枕詞）ゆ夢文れ
ひて所のしおそ（ミヤ）てれ心よつきて見て行
とだいなしひて世中もさ海じくく人
（モノクサハス）
ら人よえさうよ
ものきと見て、（枕詞）
と語れば大文伝（ヨ）
とゝ文づくようぎてい（ト）みこうちよそいうせな
らあうくへのくしよるとくさうものこ
ゆれよの人れ（ヤモ）（舞ニ心）てくそうこれあるさわざる
ととのれていくくもかやまりゆくぞ
うけいきりれけ（早速）みこあまわうこ所おさ伏

（忠こゝロ曲モナリ）
さうぐしと見せじと大ふとれあかづりく
きあるちのれじえ（本性）もいときくしれそぐ（イトキイとノベシ）
ろしまるしそあぬい（漢ラ大宮ノ）とにおくしづさやれ
大文くせごあまいぬしれてさ海ぐぬあげら（本性）
しさありくあるうよぬこうもきあべれ
ど作は文れしとのこいをあらぐくえして
あんを（本ノ）文をあやをきひがりのよ幸ばよそん
てあう海さられ大わふふわごとよをぐは（本性ノ）
ぜとそとうしよこそそてれうれじいとうん
心ゑるきとそれいをろひとをもらぬいよ（大宮ノ）
づうれんじいれうげようづけあく

心よいれ物て文（悪心）をうせひよりう物と（前寺院よりし）
よくれよこいわしめそうじれあ
ときを仏をりうう人とうんと見て行よ
あくいあるどさ海うてでぬしれう（本ノ）
と見そようちあしくやありんうひれ
さ海いてぬうげあう大文いて心づきうさわ（キ変ん）（本ノ）
ざれと見あげきうそ（本ノ母心）文もさそ
ひづとれつれどうしい心出ろけこはあく（モノケニテ）（本性）
落せとこそれ大わの文もきんでよいとる（本心）
く文めさ海へう文こととうでやうわれ心（悪）
よゆそれざあしとるんでうやあしと（悪ノ如クト）
元モナキ筆ヲ

ゑ法ぐうんの[螢]ゑもうくしのりげのさいはいなどと
ちくはなれよはきべうつうせけとこまつしぐ
[手ノ書ナラハ]
[ギノ蛍ハ蛍メルナズ]
[手乾底ノ]
こうるくいうよえしこれくまつしかどなど
かしくも食よもえしいでりうそれうしけ
ちくうんかうんといふふしざわさうしうぐ
[蛍ニギ]
[蛍ノ]
かさけくこう心ふうさなよのあいわちう
しとうんかくあくしつけさやううやこさておと
[色紙]
[アスクニキシ心アキキラ]
[蛍ノ]
[手ノ蛍ヲ]
しれうんといてこうしくかれもえしわ
[手ノ]
[蛍ノ]
こうこうとうれぐうあうあうてきて法うん
[キツカイ]
とし心づひせうえくあどえそうれわし
さうべきこいあつひはしれせうしあえ道ち
[桂花ノ兄弟ハ皆むすりヒテ手ヲ玉ヲ]

ぐてうこうれうくしきもそぐかよにくう
[蛍ノ]
しぐかしまつこうあどそうよ心ぐうく
[桂花ノ]
もそくあれうれ心しあさよ[桂花ノ祖母]小方と
[桂花ノ]
さぐれぬぞつひよゆうのくえんど男れ
[すまひ]
みこうちはのどうよ[手ノ桂花ウトキヲ]心あくてこれ桂花シ人ぬ
[手ノ]
ぐよそ[蛍]やうあ[戒ちもれ人ゾアハセミノ[illegible]]ぬあぐさあよはえべれと
[服ニ]
[手心]
ひうあ法と文りもうさく法ていいとさて
[少方]
うこぬこと[illegible]じいて長とえしく
とゆきそもれしあき心のそさいいえ
ぐしうどうこきじしさぬえんじいと
よおうしぬと心づさあくいぐ音をひ

佛法ニ付テ玉ヒナハ年
安法ハ清和天皇ノ
例ヘ

元慶ひてうさうとしよりあがりよりおこし
しまそさいひてもうさせたりよりあり
ぬれどうるうよめうれてうぐさうくれる
うそそぐしあくて年月もうさり
てうられうどけいはよれて十八年より
ありをひぬつざしれもとあらせあべさみこか
ちまうぞぬのうさよれ中とうあく
えゆうと心やそくえくうしらいへわく
うざ海よ心をやうてどうよさ海うし
くうんと年に光うしのれうをつをはいと
とうくうやうをれしとあうて編よりあうを

れぬをのへあうぞさうれ世とうくれれれ
くあうしうあげくうどを表ものあ世中
ぬひようしぐうちつざて世中れまつうと
などうとようもうけうめしあううあは
あうぐうらじのへうそうてこうりめれひぬ世中
のつあうきようりうこうきみうどれ天子
位とうれやうようあうき私のうあう冠
とけんようあうようのれて先大
ぬ大だようあうれてぞ世中のまつうごに
うまつうれうあ女院の光よううれ世とし行
つけれうぞうを世ひようしぐうぎうあうれ位

先祖墓所
氷書及ビ髪黒ノ姉今上母
妻モヨリ云出セリ
冠ヲヌキ唐カウル

とえ給へれどもりくうろくに心ちしていか
りうりうい糸のせいたいのいちれ文坊よ
ぬ給ひぬさらべきことうなてこしうどさう
あらていれめでくくあがどろうくわざあり
うう大わのもも大納言よりあうれて何のれ
よううれぬいよくあまりしきれるう
ひかうい糸院しまうるれやう北泉院のれい
ざかうしまきぬとあうぞれ心のうちよ見せ
かがじそらうれどこうひうやまのしきれいと
かくてそぐ給へうどうわよつこいうれて
そらのせまうでいえたくふまうどうりうれいく

せにかくくさうどくくこうくよのれひ
あくせぬとあれどいぶくくまえれ女れく
みこうらあくくうぞそひ給へいとどれ見てか
らびうう源氏のうちつどきい給ふめ給ふべき
ことせくあうぞそへうよつけてし北泉院の
給ふ心ゆかくてあかがりよくをき給へう
心と見そよいよく北泉院のれことと年月
よくくてうどうりうくこそ給へ院のみうど
見めいこうこ四きし而せうて情う給
ふどつくくてしもげようどくくう内
かしこれそさぬうる姫文のれことい給へ

心ばせ
心とどめて
思ひ
なれ
世ニナリテ
なれ
世ニナリテ
なれ
世ニナリテ

なりうつしよめてゆしてそうしれ乱
うけぐくうしれしんとて玄文れせれれ
いのうよまうでれしんとてうれしこあけて
ぬんぞれぐさ海ぐのいのうしさことだ身
うり幸ごとの玄秋れうぐうよるぞおぐさ
せのいのうとくくうへうる乱だげようれいさ
りひまでいそうしれべさいしてこもこいと
きそざりううでもうもうさうとも
しさのざえぐしくくうぐえく伝祢
もうくれれべきえれ紫あさうるいい
ぞさう山がのひぞう心よううことだと

こうり久人と衰よりあはけのくもけうんぞ玄
ぐきうそぐうりうあよ方とやつうり
昔の世れとこうひんやさ久人ぐ衰しめ
ぐうそよいそぐうりぐくしあはうれるあけ
アひびしひ心といあうしれうぞこで尾
れれあまるぞそ出うられうつひの和
さしぐうりし行そうれれば乱だ当うく
しれうれれだ花世中よくかうり海
そそうる文ぐれさくくとられよつけても
祢のれうさけいうそれぐくてくいのうへも
ぐ安しさせれてまうでうせれひぐさよれ

（イジワ）
加茂・幡社番ノ片四位四人・従二位八人・
召具メ於神前東北ニシテ陪従ト云ヘ詔セラル
此所ニノ陪従近衛
司ノ官人ニ和琴笛
ナト吹モノヲ陪従ト
云ヘ

（有職）
（古本ニ）
（残リ八清供ニ）
（六衛府ノスケ武し）
（神前ニテ水干ヲ舞トシ）
（セイ笙モ同ジやうナル人ニ）
（物スキ）
（陪）
（従八兵衛ノ次官ナリし又近衛司人ニセイモ摂政関白社参ニハ）
（ゲイ）
（加陪従ノコトし）

ぞいうこしたそでいそてよの
ぶひのまぶくくしらふせ給へどうさ
まありうれぐやぐうしようそかしくるの上達
あしたかたかとかたさ有てい残リ八清供ニ
うしたまのしへくこ六衛府ノスケ武し
ようけうらひとしさうぐうりとえてせ給ひ
えひよいうぬとびいそらようれへのげさうう
せきめだあうりうう陪従八兵衛ノ次官ナリし又近衛司人ニセイモ摂政関白社参ニハ
れ夏人じれ奈るどよめせくぐのこちく
れことよそぐれうぐうぐうりうのへさせ給て
加陪従ノコトし
くうりうう人近衛ぐされ名るれ

うぐうりとやうりうりのうくよいと
ぶくれうりうりれ田舎文院の夏どべ
うくよわうれて心せけうまうるぞも
ううぞ多くくよけううう上遊アれる
うう島でひたがこどのうりういうざく
れうりうりどまでそうてのへぶりうう人れ
まうきうきぶるうう女れ夏らいのうへうとひと
けよりうりううぐうれ車よいけうのれうく
あまま思ひてのうう給てれのれあれし心之
うとてのうりうりうぐうのひとぐうまひいうくの
れうこのよりけれ世夏のよけあうれれのれ
（平供人ニシテ上ニ出ル車ニシテ）
（流行リクカリトテ云カコトニアカリウヤ）
（方ト云ハ）

給
車ヲハ左方ヨリ
乗セラレテ其人
ノ位ニテ人ノ位トナ
リ給ハノリカナリ
忠仁公ノ例
（今中ヲホノ者）

うつせみ（ウツソミキム）のよのうきさうぞくのうきぬ
ゆくさうさうさいの花ぞいかなるくれ（人メセシノシテノシ）
いのちをもたのぶ（海足サセテ）のぶだうよ人かしてぬ
うぐいすと院（原）とこの春ひくれどけさぶ
くあるこしひぐさよ立まぢらんもう
らくさしのうそやうそんせ中を行い
でてぐとれ（ぬ）ばこいそげ（花に）ばあれいい
のちうしろやくこそてうぐぬゆうぐ
てそひ（生得其身ニ生シツキシ人ハ云ニ不及花ニ鳥ハ云ウニ）
ちらく白ひ（レキ〜）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ

山アヒニスル心行ノフレハ
加茂ノリ三ノ釜ノ年
人行ノ文青摺ノ袍
蒲萄染ノト紋花摺
袴ニアハセ袴結後
桜桐文アラスリ袍
ノ柳色ノト紋白後
袴合大口赤紙半碍。
東遊ノ譜ニ云ノ

一ニ哥次ニ駿河舞次ニ乗天
次ニ加太旅呂之
緒ノ第ニ若男閉付云ニ
時月ノリキ東遊ノ
皆来ニヤ
白モナリ果キ上ノ
キヲ
黒キコ(ニ白ヒナシト
云ニスワウカサキト)
(ムラサキノト)カサキノ色)
ヲヒリメノ袖ハ表上人
ノトカサキノ袖)
東遊ニ荻カサスウナキ)
但人ヒトテ古元久
ノ年ニカサスウモアリ
トヨリ人ヒトヲ赤ニ年

山あゐ(藍)よそ(無人ノ装束ノアラスリノ紋ノ)作の(伊吉)
みどりよこしまぐ(ひ)ぞ(れ)ぬ(ぬ)の(ノ)
秋の(師(ニニ月ニヨリ一入ナルトシ))
しめのこまゐ(ゐ)(ゐ)ろ(ゐ)(ゐ)もと(水)めこころつそ(ゑ)
よわやうう(公卿)上(公卿殺上ノシ)(筆誤ヤ)
白(黒キコ)ニ(カタヌギ)ぬさ(カタヌギ)ぬそわうが
(カタヌギ)ぬ(カタヌギ)ぬ(カタヌギ)ぬ

世にふる雪のおもさにたへかねて
とうぐいけるうらの竹もしな
世をそしをくれしくもの狂とこそ
ぐるしさとうらいゆ今日ハ祝ノヨリトモバ
そしれえをいけうひあるぐさとい
あるあよしくみやそうしんどそくいびんなり
しくてうらそひくるまてうらう
しくそまいるそしかはたの
てうとうらうよつけてもこひしうこちらう
来いとよあそびはいしたつのはるう
よそうて海のかうて面白くうしもうよ

白氏文集
君年唯剛堂上壽
君眼不見門前支

雲れいとこうさうとうて行だうも久ま
ばいてうろげのこうことそぐろうしく面白さも
長さもうちそひうる雲れうへつるさ
孫のうちあるうとうさくうつけてそけ
うあうれタれあそびようあうし浜ひ
くれいうどうちうこれあうさくし浜そ
まてうくうやこのはうれあうさいまぐあう
ひ浜うひぐかうくしくおうしくあぐう
集
住れはのれよ来ふうくうとうあし神れけ
うゆうぐうしもくんぬうひれあうんのひれ
山さんとひいうう雪のれあうをうーやれぐ

比良ノ山ハ二月ノ時比良ノ雪ヲ
ミレバ年ノ時ノ雪ト思フヤウニ
思フヤウニ文時ノ筆ト

まろは心うけ給はるとて
しくうん世の中
神を納受し給へとて
神楽人ノ云
神のよろもろさまざまにゆふけ
ふるふるさよの哀、中世の哀
中世
祝子ミライトシ
ふるゆふうち
いろどるさ神のをすしつぎくうぞてぞ
池子
侍ノ分
ふるふるとちよせんよういさとんうふ
ふるのうしい何のよめさ沉あとこさ
西ロノキキトイウ
らしゆくいでぎえて松の御年ふるて
ゆくいでぎえて松の御年ふるて
祝言ノ年ナレバトシ
なれてゆめしさとしうけしどうふ
ゆめしさとしうけしどうふ
ふてうんはのぐしあけゆくよ哀しい

伊勢物語
秋夜ノ千夜ヲ一夜ニナスニテ
八千夜シテ八ヤノ時ノナリ

よくふくてかしてしらどくさこは
酔
酔ナシ
神楽ニアリ
モトヨリまゝヨリ神ヲこりそしモノ
神楽スル人ノラモテシ
でゐいそぎいうう
ありてだのものがか
かとぐさてでゐ
にくだしもげたちり
神楽千歳八千年ノ
さうきとよ心とたえて
さうきどとうへ
業ナスシニ
れそ忘ていやうぞいとそゆられよ
ふとぐ共ニシキやうげと
めぐ面白さまよちよと一乗よなさは
イヨクノ共ニシキ
かしさよれらよもも
井ノキ秋ノヨ春七ノ人
ものてあけわれ
浪カサアラソヒ
浪よさめもはあ
ぐうよくうぐくうそけぐけうれ車だ
の風よみるびくたてそぐれのひよくも

こはさこのうげよ玉のにしきとひさくとへ
しるとこもろよう人のきぬれ衣こげちめ色
ておうしさうけどんうちてきてぬまうわさ
そとそこもぐあどいめよつてめでうと
しろへろ尼ぬのおうへもやへうれあしさ
よあそとにじのあうてきうじぬと糸
ふとてめぐ毋しきせのそくせるとの
がでいこうごちうきうでれしうち
しとくこくてわでうこさ祢ご
う毋ぐよ前せげるうとへさいうづ
れをうえうとたろいてうもう
きくしろうしさこもうれぐうれあう
さ毋ともうれ入るのきうぞこぬよりけハ
あれ泊でうれこあへあうぐうろうこさと
ろううしまでらくぬしも心ぐうくや
せ中のへうれてこさうて心ぐうくあうぬ
ぐこれうろうよろげのことよつけてめで
あさこせのことうこさてはうれ尼ぬとぞ
きいくいぐよいうろれらぐのあぼとあ
このぬくもぐろくうつ時の玄染よもぬ石
れ尼ぬくとぞこさいこいうる入るれみうど
くれとこうひとうぐくこうひてうちの

はしとどもさうしいてしぬるぞ哀れ行幸に
あんじしるしとして函じを引き姫
文れはしとどのそぞれえそしてこのぞこの
院とびれあるくれはうしろよ宮し紙
てうらくのれ心しもあるくくそせさ紙
二位ようしれて射なるまきいよく
宮やしはいきはいしうくう
月よそんてうさぐるはさりれ笠しそ
わるしいるでひして雨のれもそるしよ人よて
そしひどれのまり年れりあるぞそれれ
心ぞへもれりよあしろへるんせとそて

てぬうさきよ心とそしきよりしれとうあて
うくそうもうれどうさやうにやあば
えんとつまれてうぐとてもえ宮し紙
もぞうられ紅ぐさんれ心そしよ宮し紙
へぐとろしきうれもんしいとあしてと
うれしとやうくしきやうよありゆく
うへうさしとぶしとうといこるぐうれぞよ
とのこやそうぞるぞあれれれれしあく
かあるぐき風そそれれれれ紙
れ世一の文をこのるくしようわうそそしづき
ありれそれれれのつひよるんれしぐるれよ

ぶれの袖もひぢまあれども、いづれも日うぞうつ
くしくうちしとろかしてゐたれば、文はれば、
くうちぐうちはいしまごあつひとうや
えて大切なるものゆゑ、惟光が様人
よむうへてそうづきゐたりけるとの文どを見
つ、ものいはれおかしげにおもひ
しらるこゝろ地ぞ、つぎと見て
うどもそゝよいろごうてこゝろうくいて
ゆくうそぶいとくらでもとうく
しまあつひゐてぞ出でぐしあぐ
ゐりる。大阪の紀ノ国ノ
ちうもうつりゐしいる

ちうもうきてそうくくしふ
おとうびてくうれゐやうべきあうしわりゐて
ゐるれゐやうれ昔のけくちゐそぢ
きいのうへうれ冠面ありてゐまくく
ゐうくゐ姫文ぞいあぐきゐ
よわくあるきてゐ風ゐ井れ君く
今くあるやけざ風ノ心やうの思ふ人ゐるうあ文
とぶとゐ心ゐるくくかうれうんれしやれや
うよゐくぐくまうゐ朱雀院の今しげ
よせらくうやうゐ心らしてゐ心ゐそきと
きよひせのしううぐとゐるれど

荆面みんなひとりびとりのまゑをさとり
うしなはせもしそれとくちをさゝぬ
でわらはべくおしなれば原心おとゝもげよ
うべきことをうけ院宣さかうんて
ごとそこゝろ氣うなれべきをまてうう治朱巻三ノ
おしなれうが心ゞうきことく氣うなれべき
こと云ゝ用意しまうくれぞみくそゆゞさき
まゝそやいそひうなれべきあるわゞを
てうれんぜさをなべきと云ゝうゞそゞさ
びうう朱五十巻ノ末年十ノ主ノ巻しなんとうわうゞくどてうゞてや
と云ゝてゞゆゞくのれかうゞれと、なお法服

れいまうけのこゝろひとうよりしとさゆこと
よりうこゝとだうしゞ人のれ心ヒ（心ヲトシ底ヲト思ヒ果シ玉フ）ひだ
精進ナレバ
ゝうて云ゝめゞうそ（未）ゝものそびれさに
心ゝゞめさをなゝうれゝゆゞくゝ
どと心ゝとゝさゞちそゞれゝうれとゝのゝ
さをなゝ玉大原のれるゝ（修行者）だゝうゝ大われれこゝ
れそけゞゝのくゝゝ（西行ノ歌ニ云ヘリ）てこんゝゝらいさゝゝつ
ゝうゝれい（ミテ名ハ）ゝ名原ゞゝをさをなゝ（幸）ゝれ文のわゝ
くゝ（玉緒）ゝうゝ（ナ）ゝべてさゝうべきゝ云ゝうれれこゝも
家のこれ玉遂ゝ名云ゝてひ出なゝ原ゞれ玉遂も
ゝうゝうくゝかゝゞ（ナ）ゝさ第のそゞゝも心ゝとゝ

あべきことをきゝかねてかのまろにに弟のまうけとせ
さを拾いうじうべきこゝろぢめのことを皆人心紙
にうつしてみんなちくれぬの御上ばかり
面おもきにうつ文をもてちうんのにとと
ろんをもひ拾ひうくわうくて院よりもいさ
わるれをう拾ひうしうばあ(朱ニ物ヲテモ)つるをくをうて
弟(羽)うれをへついでようれにとれ孫つ人文(羽ノ孫ワタリ玉ニテ八年ヤ)
いまはしさきまわとをきんでわいひさこわ
拾つんとをううごとよ文し拾ひうとうち(朱ノ云)(今上)
よしを文しかてて(羽)げようちこしけもいこと(原ニソヒ玉ヘベ上手ヨリ玉ヘントヽ原ハスレテ上手)
おんんし院の(朱)れ前ゝてをれうて拾ひうん(生)

ソラノサムサヲルサ
樂書曰師文之寒易寒暑係於之感動
風雷云調琴之妙也
琴書云師曠晉之樂宮也工於琴能易寒暑
暑召風雨為音平公
載之感云鶴下降舞

ていでよ弟てきこゝろやるどのれをもけ
ふとおとゝの原しつをへきて拾て(羽)弟ばさち
わべきうついぞごとよはをを(文)ゆうこともあり
ことをけこひいげよ(モトノヨリ)原さうを拾ろうしどまゞ
文しを原あるれおうきよはとよどねとを
ゝしあくて弟り拾て(朱ヒ)んれぞよきこうわき
ひとゆうしゝゆうしゝを拾ろんいてと
てうろうべきことをいとあり(生ヲ)くを
てをを(生ヲ)拾ろうへ文ことを(メヅラシキ)
ばそれ心とゞうを(琴ノ心)
なりををうろうを文(モチヒテ)ゝ大ごくだれをき(幽)(四季ニワタリテノ常ノ面白キ事ノコトヽ)
よつけてろうべきひゞきをれをしぬ(寒暑ニヨリ手ヲカヘルトヽ)

ふさとうの人上てやんごとかうべきひとのぎ
ものとうとうそとをしまして汝は心もとのくかい
きうやうとうれどやうやう心え汝まくよいとは
くあり汝ひとりいとくはげくれひとりとびも
由ハ元シ　梅ハスクレタ手デシ
ゆめうんそうとと海も心あくうしうたしで東
ふくうんそうとの心もきあるべきこと
てこいもそれれたいと海まして汝てあけ
うれをつまして汝女はれ来ものもこいのよふも
きんとうとうそうしたりうたしでびあり
おさくうとうれぬもどもひきの汝人をゆう
しとそうて世はもわざとあうざれい

ヤウコツトアル本モ同文し

こ海とうでうざしてまして汝て海ぞて汝人て
びこ文て面おくしもうもとまきしりうきこと汝
ていつ月ざうとうぞうり汝人れどうとわざか
懐姫し　二月ニしべ神ニモニーうしストし
どとつけて
そぐていい気うり汝べきれをうそこ神ちきう
あれどうとうれ汝べきれをうそこ神ちきう
ふのれあそびとうそ
ふのれあそびとうそ
けうへれてざうりうへとけくこい神汝石
の東北月くへよくびてやで汝れ心うれど
おりうさ東の吉北ひりうよりうよあひうう
をどもひきれつてうう海人どもそうしぬ

女ニミテ

清華ニ神事アルニヤ
馬表紙ハ十月トカリ十月モスラカシ

よかのめさうよれいとだうらぐよいをて
あそびあるどしれ年れらつこいらいかど
よいそぐしくこうくうるこのれいとあとを
のづこけんじいうることだあれどきれうら
らうこんゆべあどよいぞけれことれをさ
んとのれいきうようたうぬ院のれ咲
まげ年はやけうちをきれをれことだいとこしく
さよさしあいていびへあくあげれてそこ
し程そぐさを祝二月十よはしとさぐうれて
ぐくまひくるどをうてれあそびうしぞ
うぐいよけよりよゆしうそうれとのを

いぞひくんでのきうびくのもあてせてせぐ
心さんんでいまのあれどばだそそうよけわ
うのくんでのれ心ひこいもよ陰さうを孫えう
ぐきけくんううといあくくあけれ
どあよごとしいぞ心よきぬとあじと
うんあさうさ程よえしぐよあうりの
きとふうぎうえさうさ変くのさうべき人
れけくんだとのこさぞ心うゆ中よとふく
うづうきれと笑ゆうさとの人のんか
うしそれうもえはびのわさ人どの
ざれうしあういそぐすようあくあうに

ゝうべしさんらいまうてきたりよりのぢん
なくうにうとうはせ（ほう）にとのぢうぐま
ぢうへいらくあさくあしじとのぢへぐ（ぎょう）ぢの心
なくうらぶてうれしくくゆ（ゆ）ぢうぢへよ
なりよりうと覚えそ（十四日今年三十九）ず一二ぢうりよなりぢへ
どれいというぢくうう（十分ナラズ）にさぢ（ギリ）ぢ心ち
ゝてかくあえ（ヒヤス）ようりうくれしんてぢ
（原日栄）覚ゆもうしてうぢうぢうぢで年へゆうを祝ぢま
さうぢうよりうとけんぢぢうよういくし
ゝてうしてうぢへと（原ノイケ）ぢうしてをつ実
ぢげようれうしうをあくていまてい（紐）と

是ニテ一日分

けのくおそうしぢ（原）ぢをうぢうれふうしぢ
ゝと人ぢゝしこてうる（ムム）ぢ月廿日ぢうりようれば
そうもおうゝさうぢうぢうぢけまへ（ナ）
の梅ゝさうりよりうのゆくあうれ（ア）ぢのまだ
も皆りゝさぢゝうそうゝうりよりぢ（原月スギテハ）ぢて（ナラズ）
ぢれゝそぢうくゆさぢぢうんようきのい
せぢうんれにとのゝもゝぢうんぢうぢうくひか
うんとけはぢうりうぢうくよりぢへとそ（サミシ）ん
ぢよりうゝてりぢけ（業）ぢようれもくと
ゆりうゝりてぢうのゝまゝりれど
こりうゝいよことうゝとばいえ（業）りうぢゆうれぢて

そう袖びいらしれどよりうぎりえりて
さうてもおれわらべ（茶ノ童女）らそうもそうしかる
四人ばかりの多よ物のぐ（上ラノ変ノ上ニキルモノ）そ（茶色ノ）多のそうぬの
あこめうさ人の（袖）うへのうへにうまられあれ
うらうらうさ多もそびれうぎり（茶色）
とうしうもれのぐ（茶色）こもれ（使人）ぐいぐ
いとあうら多はのくりるきよを
のくいどまし（アヤシ）くけらうそうひ
むあぐやうよにあ（茶碗ノ色ニモ云ヘリ青磁ノウワ）まうとのを多よ
そわうれぐうらあやれ人のうまはこ
めい山ぐううられきをおあぐき多よと

白ミヒノ子ノ八ツ、
合薬童女ハ姫ノ片ハ
袴ノ上ニ青ノ袴ヲキル
ウキヒノハ窠ニ霰ニヲ
ツケミハ上ノ袴ヲハキス
ル袴トハイタヒキノ
袴ニ

この人うわのれ（茶碗ノ色ニモ云ヘリ青磁ノウワ）いとくくしう
でこうぐいうらうさくやうはのそぐの
うぐううてあこめうくうそくうらやあぐ（紫ノ色ニライ（リ））（ウチテキラツツルニ）
えううぐそれ（サミ）ぬれ（ミ）ぐくまうもうくつ
どひ物べくうて物てわうぐべのそぐいぐう
しうしよけくうそ物てう物をにより柳の（青丹ハコキ青ニ黄ヲサシリル）
うぐうこうえびぐめ（袖）あのあこめうぐこうこの多
ぐくめぐうきさ多よはあうひど大うの
けうひれいうやうくけうきうこうきうへい
とううびうう（ひうの中れれううぐと
くあらてこうあうくれ木丁ぐうと

万葉ニ青丹ヨシ奈良
昔彼所ニ土ノ青ノ赤キ色ノ
土器ヲツクリケルヨリ云ソメ
タルトヾ

けらめうて中のまい院のかうし海せべき
かまうしようをいうらふの物のあるをよいふて
うべとめうんとて右の笛いとのくミらうんの
えあれうしれあるよ者さうれ笛ばかぬれいこ
らうよこ笛とふりをてものこよさかうをせ
ばうちにいれたるものだるべてれしとだ弟り
わうそいし秘蔵し流れしとだうううきこうんば
のやくろだよいれうろいでくあうれ方
よびと楽の一よとごんせれ者よさうれ
れしと文よいうくとくうきことはまぎえ
いきれそぞやとのやうくて何れるあ

しばつるとぞ上べてをり流ざうれ大きもとに
くり調子とるけしどれくれよのをろ
ありの上べよつけてことらのうらどみ
ぎうめうそその心ひこのふべき
とんかいえうをぞうづとれ大わとそ
やうをけべうれば笛ゆきだまぎりとれ
さあげて物ようてのえくのこづようぞ
ともいれて大わこあるよとめせばれうく
ぐうくくう心づうひておとをそ物
れ者ととあうていいづれも笛をそぎうきれ
ぎうれれば心うくへて大わのうれれし

大きもとに
調子とる
笛ヨコ笛

しよ(惟)あんるうべくと見えを世(ヨ)にしつゝ(金上)ようく
れきこうそもしもぬよあそをてひさかし
ゆへ(所)れ(所)ぐうをろやそをきとこ(笛)ゴ(フキコトハナキトシ)へそいくく(狂言)
うぬをてべなし(時ニシメダカウニリカタニニヲトシ)ど(所)のしさく(ダクシナラムトシ)まわろうこと
みくてゆきせれ(ダクシナラムトシ)こ(ダクシナラムトシ)ぬべ(ダクシナラムトシ)ろれ(ダクシナラムトシ)ま(春調チハ大夏ナレバタダクノミダレシトト)ことの
くをうきいのをそをうぬうろとこ(ダクシナラムトシ)ろうて(所)ものや(女ヲヒキトラス)
とか(所)ぬ(所)ゆとあ(所)しく(所)えをだ(ヲ)ぬうといく心げ(ムメテナミ)
さうしてを(琴ヲヒ)まへのとくをうろうをうをしさ
れ(試楽)心をあんるうもくへの心づひいをとよ由さ
うて(所)えをしゆへ(所)ぐあぎやうろうれ(也)かを(安)ろかう
よををろれぞぎ袖(所)くをきうをてひをろ

花香流便りニメダベシノ
宣サツフミルベニハヤし

くろいて(所)ゑろ(所)れかぐろれをそよろうゆへあ
ふ(春)をそれゆのそ(梅ニ)に(所)をこそのゆる言
ゑ出(所)ろれて枝(所)しをしぐ(所)ろきみぐふ
うゆをろよ井くに見よえるぞ白ひ
ろをそれうちのゆりも吹あをせをらぐ
ひをさををつまをよをろべくいうぐさかをぐの(氏殿)
ゆろれ白ひゆろをそれをてをろりさうれと(箏)
れをそをそうをを出(所)て(羽)うぐ(メハ礼ギシ)ニをさやうか
れどこ(タニ琴)ろ(所)れ(伝シ)がをうをのをて三ぐ心し於へ宴よ
まろうとをしへ(陽ニ十九人ハ工メヲ支トシ)のゆべきやうしあきをとれ
於へぐらうしこゆて於をり於於ようい

一ノ絃　初ノ絃　八ノ絃ト
三説し

辛部ニ半ヒトノ玉つし

琴

琴

一口ヶリ引テ力ヲ所大夏し

禁中ニ其名ノ上手

琴ノ手

琴

かどろうふうきれ（辛労）ぬるに成ぬるに成て
なりしろきよ（涼心）かとくれ心あらぬていとあるぐ
くこ実し（流れ）ざらば（果れ）れにといぬのひまぐくよ心（楽ノヒマグヨリ）（コユル）
もとるくり出るぬのひごーてうつく
しげよる海ぬ（恋）くのこ中ぬ（サミ）きんい紅わら
きくこうれどるぬ（恋）い紅さうれどくぬど
ぐしーぞいとくぬよひごさあひて
いうよるにうれにとのひうかとたわこて
紅物ようれてさり（ダリ）催馬楽紅院（院）もけごあるぐさ
れるしてくきん紅れ（れ）忘むしーうもい
うぐくなりうくすうーふつくよりぬ
（コハツヨクチリ名ハ）（ハ四四十七文ナ）

くきけそいて実ぬ（ぬ）もぬ忘いとそぐ
れ紅へるくんてよのこげうようゆくまに
ふうざるくうーさよれ（れ）あそびう
（地青ハ九ノ）恋もくるきれ（れ）ごうろこるくき
ようけて実きぬ紅ようもきん紅ぬる文れ
れ二月とのぞき紅つれ（ノ紙ノ）ぐくんうけよらいうく
うりーげるてこれ（れ）ぞのこある心ちそ白ひ
やうるこいをこれ（れ）てこごとあそやる
かーしく二月の中れ十日ごうれ去柳の
わづーよこごうーうんぬ心らして雪れ羽
風よもこぐれめべーあえーようこ紅梅の（百番ニ之ソナヘ）

雪ノ羽風ミナヒリ青柳
祝レテ物ヲ六ツ咲哉
具平親王

ホソナカ
女ノキルカリキヌニ
ミハタリノセノ人ノ若
后達ノ姿ヨリトナレキ
モ若男ノ組ミテ
紐ヲ結ル

かそかごよれいごてい所ゑんよりこぼれうて
柳のいとれさ風しうこうしそいうぎあか
きこ人のれいてさ風ふかれとこうあうよ女れれ恋い
おりしやううれあまよあさそごこの今そこ
し白いくこうてのけこい心に
くこうあうさ風しいてうくきこがれ
うう夜のふれ夜よううてうここてうお
らぶふかきあきがしけれ心ごし並へ
ふこういと上こうあううあうあうあてな
やまくこ見て並ひいられごれしともあ
やりてけうくうあうあうう並てうさごや

ナイサキテイシ

ヘラカナルン
よあのびうう並へうよれけうくい何の
狂おしごをのびうう心らしてとうよら
いうくけうこうやとうもうごいと長げよお
うこうこうごいのれごれうれうう
うくくきよのうこうこうはうげれれそご
せよのくうけうこうげううよ笑れ上こえび
ごうやあ人多ここきこうらきうそすわ
うのかそかごよれごうのうあうあうこうく
くゆうこうよ春さうさあごのさ並て
やうごいあまくあうあうあうこうく
ふ心しして並というこ梅よこと人てもれ

ヨセイシ

日本ハ梅唐ハ牡丹

コウチキ
御大小ヲ三ノ人
式アルシナトノキル地
キヲ上ニ表ヲ其
上ニ御ヲキル工ヒ
ソメ蒲萄ノ
リロニアル
ホソナカ前ニ見

ヨツノモノ
ねよわそぐれらけひとよめ
れいのうよあしはけをさるべきをとさし
しあしぞそのあどりさどもろづ
そくしのそこゆしさ夜てそこもと
あくのそよあ夜めうくるる柳のあるもの
かそあがりえぎうやあんこうらさ
うそりくわたうあげつる引けてとさ
らひぐうしどけいえあしも心にく
をたるがつるぞこ夜のあをどの
にしきのちうさうるよまかに
もわでびとをおをきてうぐ引さだる

高麗
早ナメ
ハバミテ井タル
発語八世ニ仮合又ユヘニ
ヒザミソト引カヒテ

橘ハミナ花サ(ワノ)
葉サ(ハ)ハ言ツテ
トニシトキハ木

いきうけてうとやうよれひのしうどら
れもそのあ孫ときくくもしまくいきぐ
くるつくくてさるまつ菖蒲の葉もこも
ぐてをあ枝折
とけぬれけをひぐときくこ紅よ心わしいと
うちゆうくえしさいのよれうありよ
ア夜も孫びまうあ孫てんきさ夜ゆうさよ
ちげ心もあ文をばうすうれくせぞよ
どまうくぐわがあうてもこをりてまし心の
いとめうさぞくやしきや屋くくびくさうこロミモト
やうよともじけてううとまものれを

菖蒲ノメラヒタルサニ
節分ノ夜ニミモラヒ
笠

ろとと祈てくゝへどそうしやそきうこに
ゝて祈ばけるひよかづりやゆといかけ
どゝとしも心そうごうろうけれ方をど
何ごとも云ひとうぶべきうくけどをく
て年比をめれどいそぞうで大うこよ心よを
ゝうさ海とも見てしをんとどうの口かく
かげうきつうくうあかごうよをすぐく
月げかさ心かどいうこよゆしれをぞと
ゝくうておさあ祈てうゆ東ふけゆをけてい
いやうかうゆ十九日の月しまうれ月ろうよさし
出てう心もとかしやゆ月の東よ秋の

衰てくいうやうかうゆのひよりれ忘ようす
ゆををてうくでゆゝぞこよかくひぐさふ
心ちを秋ハミレトイまてしとの祈へで大ゆの去秋れ東の
くを海かきを月よいうろげのゆれうでこゆりか
さうこと笛のひもゆをうこよをゆう心ち
くしゆしど狂秋ハどうきうこよけうゆをさ
ふやうかうそれくうさ雲れ雲し多こゆ
うつうひ心ちうて限こそ侍れそれそのこ
どくをさうをそこの海うゆうゆ月秋
よをげうこ海ゆをもしくうやうよいいぞうかえ
の祈ゆどもえんよをそこのがうそぞゆん

毛詩
女感陽気春思男
男感陰気秋思女
光ノタノイルヤ

拾遺 紀恒
昔ヨリ云シキキ人ナレトモ
秋ハイトゴロカ今ハヤガテ
春秋勝劣ノ是ヘ

ヤ
ヒ
ト
ク
ル
ヒ
ト
ク
ル
ヒ
ト
ク
ル

てのをとこうてあそばせ給ふ孫ごもや（歩）昔の
をうん（恩）をもやあのれびとをもびしめづ
うなりこのうへはいきいづてはわれげよりこと
らのきとこよひうはけれとりめのひごもの
なひとてこうてあそばせ（世楽イヅレモ上手トシ）ごろさはもれくわごと
もまりぬれわそびとうをひて二ぬ（ツケニクキトシ）へいあもこりろ
心のさとぐうやはうんざうがみどをけう（エキノニハツケニクキモノナリ）
うまろにてうえんさごんをうれなとぐごろ
そくりうよつけてうらんべるびしろ（面白ク心フシヲ）
孫ごど心よぬうをてきくそて物へろいを
とよめ（カクヘツナレト云ん）ーぬきくさをもろれぬ（キリナキモノショウ心）

ぬよはりうとをとこうくそのひてそは
つれとめぞ（原汁）ーとさくくこきさい（ナガラルヘキ花ナシ）
よいのぬとわごとうふ（米キツト）くるろか
さうくかとてろわがよはをを物げ
よりういあぬでしだりうしびとそ（乃至ノ）
もうてよりらいへ（原ハ一言モシ云ハヌナレドモ）さこまぐらぬとさ人
どぬのけをひとうべし（ヒキハ）をしぬ前（ツネニテノ）そき
きそぐからしよりぐしきぬのをう
かとうん（恩）をしーうどそれりうあいこ（コトヽシク）
よりくぬきりにうとやとせそわれ（遠リコウシテ）
こようこら（カタロフん）ーぬ（ヒ）ぐ（ヒ）ぬ（ヒ）ぐいそう

琴ノ動天地感鬼神

つきもろもろのことくさつけてあ
いまゝにぐさえとふぬいづれもきこえあく
かりて我心よわくべきうぎわかくみていて
じといひとゝろにしたがしどもいのしてれさとわ
ゝきくのうれまおさくうけしだごろ
とあつてうまゝいとゝ心をアリてしあり
つてうくもあれにくきぬよいあり
けとい海とよあしまてよゞひろわら
しゝのくあつうとるじし見うこれ心
とやうけよろいのぬりひれうりよてこが

ひさ、ヒキ初ル
允恭天皇文武天皇ニ
障琴ノ給ヒ
ウツホノトシカケカ
古文アリ

家物語ナドニモシルトアリ

いてうのこゝろもうきぬもうこびようゝ
やうくまげうきぬもうきぬせよけてさ海
つよこうゝまあづうせよゆうさうくいあ
うりくさあまいきつうつうこびわつこ海
でうくけしとと心えうくあれつ
とうぬあよそうあうあうさよあて
けとよまひこうんと海どしてごようう
くうくあんをうくうげようくあうきうよ
れ月りとうごうし対あぬ雨雪とて
せ雲いづうとさうこうこうこうあづわう
せよくうりくうくうぎうあきれうそめ

まてよあるひとの人のそこゝろ世のそゝ
れぬるやいづこのそれらこの俗
あんへうれど花の見れのこゝろ
きそあるよりわれぐしやあ
物じてこいあくぬぐひありれら
れとしくんよりぞこゝろふんをつけて
うふきまてよ今ものくてゝ
人のとゝろこゝさとよそ
れさんのひとるあれていのごとゝぬとこ
との人ゝろゝべといせんげよろげと
ものとゝふゝあぬこやくうゆくせゆよひ

うゝそとゝれて心をゝてゝろうこ
ぬとけよよまどんひりさかやこゝとゝれ
しとい世中よひぶゝうぬようぬべしかど
ゝうあ花ありて花はゝとゝよゝゝろぶゝう
れゝとゝいゝゝうゝんゝてべひゝろよよ
とひゝてくゝんゝとゝぶゝしゝらもかゝぬか
なゝいゝんやあくのゝてべゝぶゝゝゝゝさご
くあゝうゝよゝゝゝゝうゝさゝうゝよいせよの
ゝとゝあゝ家よゝてゝゝゝゝうゝうゝとゝいぬの
ゝぶゝうとゝあゝのひくゝゝたゝせてれゝくい
師とゝゝべゝくゝんゝあゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

催馬楽

カツラキノ寺ノ　ヒノ　ナルヤト
ヨコフノ寺ノヤニシナルヤ
ニハ　ハ井シラ玉シツクヤ
ニシラ玉シツクヤヲシトン
トヲシトントン　シラシテハ
風ゾサカヌシヤワイヌラ
ゾトミセムシヲシトシトシ
トントヲシトントシトントン

上手ニハナラヌトシヤ

三反

琴ヲ弾ニ石ヲ

ものどもあり　すべくもなくて
をやまてはと　いていけるこころべき
せ　ものもなきいとを　ものの　へ　ものの　へ　大
わげよいと　にあ　くくづしと　えせ
みこころめれ　よこやうにあひぞ　れぬし
れくぐそのようあ　んそもさまでおぼ　ば
ふやうあるぐ　ちなりなるぬ　ぬ　れぬ
ぐちなりなるべき　二文今　り　てして
れとあどの　へ　ぬ　れ　て　ぬ
ちくゆぐらてまめ　れ　れ　ぬ
れとどいう　へ　ゆ　ぬ　れ

催馬楽呂

樂ノトキモ玉フシ

れぐ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ
れ　ぬ　ま　へ　よ　て　ぬ

輪ノ手トハ日本ニテ引出ス手トシ又就楽ニ面白キ手ヲ引ヲ云

琴ノ乱手

隆手　片垂　水字執
蒼海波　一鳴調

万秋楽五六帖ヲバヨリ破ニヤル故ニ五六ノ破等ト云五六破六帖破ト云心也

カヽリヲ
春楽呂ノ反音ハ呂ヨリ律ニウツルヲ云
春楽ハ黄鐘調ノ手用ルニヤ但黄鐘モ律ノ反音律ノ呂ニナルヤ

ちきまであいぎやうつきあらしのてをどせ
べてうよいとうじ　角
ゑこ落ちてべうとうれいとの孫ろうゑ
ごしあろうしくゆめきうろうきんいごろの
ちてべあきれての中よ心とぐめてるるぞ
いきこ流べきめ六いのを琴ていりてろく
せまりていきこ流ろうきはるぞいと
ろくせそそ少四琴ハ呂律ろげのめよよ
つろちてべそこたこしテ調子アルトシ　わろつてひきれ
心ちてひとちしれさ由こぐへぞいとよく
わきまへ彼ろを思ろけうてくもぐて

七番ノ人ニ

ちてこ実しれば七番ノ人ニ　ゑぐらのいとろうろく
ちきこそせらろよ心ろれろをらきぐろ
れて深ろてろめろんよこよひれあそ
じくかぐくいあてぐろろ狂よとろつろ
とぐ百サミわぐきぬのものいづれをなきを
きわく狂のろてこうぬこどくくしさよ
ろくかけよろう心ゆきわぐろうやろて
さうれ笛ろく素ようろけさうれ流てれぞ
めざてろけ流よこゑの素よいこ素ろう
ちりぬのかそかぐよくう由みどとくしう
らぬさ由よろうきぐろうてための素よ

こゝろのはるゝよりさうづきさうしいでて文はれ
さうぞくひとてぐらうづけそりぬとかちぐ
あやしやめの所とそまづくめしぬて
フシギニ
やうれしきことうとのぬよ文はおく
しまのそれはまてれそぐうりれ笛をすりす
うしひぬてこうりぬいうづきこ夜笛つうそ
う吹なくしぬへぐ笛うらいでぬ狂ぬ夫
わうちこ毎りぬてはるめのうりぬへう笛とこ
つとて、いうづくありうくわきそて行へう
がいとうぐうくやゆれぐぶづれもくぬ
はとうれぬりのはうへくいてこ笛く

ぬこあうしてぐ秋はうえの狂ありづくか
ぼううれうう夫わ夜く夫迷とれ車よ
のそはのそのうう夜ぐぬうらそぐうさう
はとのううていうづうつうひもうくよ
つうて立しく立て迷わが小方と有夫の
とうはしれしうど心ともあれくざわし
狂よわうはりう迷すうくゆううもい
きうりれうでかとこ君のお前うていくぐ
てううよいされうぐ伝ごとしうづわい
りうよ打春とうろうさ夜してこだわう
ひとうとまのくはうさくうぬ迷へぐか

き所もなく見わたされてしかし
り給ふこうらしうのいざやうつさて
うつてきこゆぬるぞあしかりける院もこ
（ゝ）ろうの給ぬうへくこゝろ（ナ）ゝ給て文（ナ）はぬ所か
ど実（ナ）て給て曇（ナ）ぞわろ給（ゝ）ゝ日こうか
ふまぞ（ナ）ものごろ（ナ）ゝ文（ナ）れ（ナ）ものゝ
（ゝ）こうさくろ
と実（ナ）給へ（ゝ）ぞ（ナ）ゝ
きこしいうよぞ初心やゝろ（ナ）ゝ
かりよ（ナ）ゝいぞ給（ゝ）ゝ
（実）給ゝ給ゝ給ゝ

とうく覆つゝかゝぬの沖かうし
うゝ給ゝ
まゝうわざゝ給ゝ
給ゝ給ゝ給ゝ
じとの給ゝ
ゝ給ゝ
ゝゝと覆ゝ給ゝ給ゝ
とうて給ゝ
つゝね給ゝ給ゝ
ましきゝて心ゝ
（実）ゝ給ゝ給ゝ

とのくつきぐ夜ぐうれつてそぐしてさて
あつそぬれ（筆ノ和琴ノ事）いとの孫ぬ（今度）いてぐへしてわしし
えんがくあつて大ぬのいつくくふさいかどろ
さうわしいつさしもえやうようしく
そあつしれとあし（原ノ心）ぬうやうれそぐしい（管絃ノ師等ノ事）
まいえかるくくて文（今ノ女房ヤ女房ノ君達ニ）いかついか
ぐそわもちそしぬ（ネトモ）ぬとかく
そべてねぐとよつけてもどうしくこど
くしきこと夜ぐそぐさ人のれいあつ
う夜のしぐとくぐ（メライ）やつ人こよよ
くぬうかしものあつとゆしさまぐで

ぬ（原ノ心）ぬ（筆ノ世ノ重尼ノ年ノ事）ぬ（辰年ロ大雲七世七ニ千歳）
ことしいあ七（筆ノ世ノ重尼ノ年ノ事）ぐあつ（辰年ロ大雲七世七ニ千歳）ぬ（原ノ心）
月のことおぐし長よ（筆ノ）ぬ（原ノ心）ぬ（筆ノ）
さうべされいのうおぐ（羽）
こと（筆ノ）いたくしし（筆ノ）ぬ（原ノ心）ぬさいぐしくぬしこ
てこいこぬとし（原ノ心ニオヨハヌヲヲセ）ぬしあんと（筆ノ）ぬ
ぐしてあ（初）ぬ（大殿ノコトヲ）さうこと（筆ノ）ぬしぬぐとの
ぐしせさをてん（山ノ）ぬ（原ノ心）ぬ（ウセモテ寝ミ焼テミエ）ぬ（世ニナリ）ぬ（新待ナラデモメノモシキ人トヲシ）
にこうそいとにあ

このちんもいとうこかりしへとあど
の流いげ（涙）えうらい（相重帝）（伊子ナレバ）おくよりへよと
なりさ海うてとしくしこあいこでいはの
世のえしるさ海さうこまよこぐいあくあん
きりうさしどきまこ（九辺ナドノ）まよ出くしてあ（泣ナトノフ）き
やとうこもへよい海さわうしまづ
えへよさ海ぐとれあうこ海りよい
いのをえよもはのぐそうあしとえこと
はうさあくまこ（悔ゆ）きことつけても
あやこくめえこしくこよあこぐえやう
とそいうあうてるめしぐれまへて

やこいしはうはいいまでもかぐあるか
らへとなへこいこて（恋）えの海あはうれ
（内ノ）ひとうの別らあるこあやこいと
て心こぐうはぐらのとあしとへんえ
さきえ（白ヨリ以下皆こへトアリと物忘ニテ）てそしらつきくい
へんとあうこへとなうあうぞやそう
ぬやこいそへわがあうこうさまらひよ
つけても心こぐれへよひのさしぬ
しやそけあうさを（茶ハ原ニテ）あやのまどれらあぐ
そくし海へうやうう心やそこさとあう
そのうこいへよそくしうれうそくせとい

紫ニハ
しるやうにこのおよび文のこゝろばへ
ゆゑ〻しうそいふ面々なれどそれよりは
けそいとゝぐくもろ心ざしは紅とれいうづら身ニヤリテハシヒテメモノバトシ
のうへうれしば紫ニハ
くこゝろ紅のうしてきわこもとうへこふて
ゆへじの源氏物語やうよりぬくるあそ紫ニハ過方ナシ
ろろうそのゝしいあるめど心よりてぬか
げしさはこうらそやさしうらうの紫ニハ
いのうのうらうとそのこうはあげるけい
ろづしげうう面やうよいてゆくさ
きくのさい心ちもちをとしもしく
今年七命
かうそそくそいふとうこゝろくこそさざ
きもきこゝやうこいそれやうあるまじと
実紅源氏ものしえ
けこゝろれ紅のあんよりありていあるよのこひう
のゝへぐくのゝとゝくてこゝろ年月ふれ
どゝあけうれへぐそのさうけさはこそ
面そとのゝえやれ紅ゆこゝとゝのゝ心の紅
と深きそ紅へとのこ実紅と例のこゝ心や
まくて間ぐこゝ紅とこゝろけさをいと表と
こゝうう紅てよろけよ実しまざこゝ紅
心用ヨシナシテ八心
ゆゝくいあゝどゝ人のあうさ面れうゝくよ

にはかくいはぬとこそ
思ひもよらぬことを
きわぎこのうらもとと
ら見えとかきれわし
おくてきこぬそらよ
うぞへどそのうちに
へどいてかくやしく
ちはしもなきうらか
いたうるうしくと
あねれとえやうと
はまうぐれうこ

本書ニハ（キ人アリカノメキ）

ナニヌノ代

ハ

ハ

ハ

おどあまりてうらいし狂よやどそへてアラ
中そうしいとあるまじきゑとうらてこの
のしくミダリがハしキ　ムアサキん　ゆゑ切り切り
ゐあ沙へしがいとりしくげよくんごとそいき
しわびつをある心らしてやこうあぐきあよ
中文とくさうへさいれらざうといいのごこ
アとうそくせのそうアとくんのうこどもうぞ心
しをうとうれせあごしも始とされめんへ今
し昔しもあとざうつる心れそさいよいとあく
原なれ　くやしさいとしもあ原うんとこうこれ
人のけうくそうづの始ひ生て円れ原上の

けうしうこいあよどうの行ろぞとあづ
アとやそ心やをさいぬよこいとれ心れそこ
んしぞさこうくふそ而ろくよるんらて
べこくようびさおいうこよえてみどれけ
ぬうさこよこもうてそこくうとあく
ろうしこさ而そあれとの始へで遠江　業ヤ正長所　と
うのどうねをうれしまうあるのどものげう
らうさうあうくしもあるよいとれけ
にくこ心そうしさこさ後ろうきをいとる
とこくのさうしあきをいよこ始くんとて
まうれどれしをものづうそゆうそ

ゆくすえのことをかんとの浜さごうりめぐり風し
と心とき浜へうしくゆくして
うしうしのどしし浜れしめれのあのまし心か
ふれあまりそうしと見そよいとありぐられ
じ思そいさうそどよくゆ浜ありぬ和し
人よりとよりてこびいてとくふこそ
よ心づひいし浜ひれさしこうらうれど
ふさ海よにうくふういて行さ
そやし浜へとほふふてあし浜見よいとよ
くいさうり浜へうしとのうこびあし
そゆつうこわうれぬうれよ心をくへ

やあへしうそいてうくわびてい
へうれとよ心つれてそ今こそ海ゆう
してみやそまを浜へしれ師く心ゆを
でそとうつうはのこうしてう
うこやくあり浜ひよりそれとも
をやうてはものごうぬいよい例のあい
し海さぬ乗くうひこさまひてへくよ和
浜みどうまをてあ浜くせをこひよいい
あつあうう音浜だしあどうおとこ父この
こうこ心あうへようづひうせあううこ
ととひあうへうしつわ浜ふうう行

小所系
ヨルカタヲモ有ト云ヤリ
アリソ海ノ方ニシラ
ハヒヲナシあ
青物浩光系
仇ル人ニモ侍ル

人ニ又我思フ人ニアハヌ夜ハ身サヘ又ルミテラシモホトヽキス

てそあらし沼やこゝうさてしるつきさ海ふかげよの影へつるやうよ人ちとかうそくせしもあらうらがうゞ人のみひゞくなねとよるぬこいもかれぬ身てや風とかいとそんいりさのくしあるれくどこいたづけて乗うけてあはものごろめる暗ゞこうれしひとあやこ行人ゞこをうあつうひてれせうそこ実しさせんとやゆうとゞじへかいこせいこ行てさしゞこをとをうへてあこ行けれ分もめうこうてれ心ちしいとあれど慣もこゝよわうち行もぬ程うくあこ

と実しぞ世れのれうくこうれせうそこあうよくあやまうくてあんと実しあこ行つうよひひけぶうさてそあくこうあこ行つうよいとうてげよれていそゞこうあこ行つうよいとうてげよかとそいあうれ心ちでとてさゞうをれゞいとあくおとそれゞさのふあこ行ひこれくしこれそゞみどえこ行ゆうせれていとあそうくえさうれあみどこあくよをこせうれどこうれ日一日そいおこてよろけこ行ひよをうなげきれこうあうれくゞめをゞてよいとめうくこ行て

あさましうて日比へぬいうるんと
見しさまざまてはいのうだうぞこそてぞそ
ものさはそうかしてけうちみどをさんをはそ（ドコガ痛ナドヲ所ヲナシテ煩ヒヲトハミヘヌトシ）
こゝろうちもなくいうづくしくるくしく
てひひいはぐとうてうづいはさはうへ
ぐくるくるげかうさはぐのはつくしこ
うぢりなけれどこうしもしぞをかりと
うれどものづくをこうげちめあくばの（女使気）
りさというづくくしくるるとん
をりはよとくぐはぐはぐはひぐ
さしこうづまりぬうれ院ちもくわづひ

はうしてはとうひいと会はて
うづくはしはかのづさはうて二月も
きぬいうぢりのくるあげさて心こよ亦
とんはかとんとて二条院よりわしをはう
院のうちゆりうちらてこいるげくくあ
りはは果院もはしりあげくはくはをは
くはしるくぞせとそくれかいうげはい
てんとたはるるづも心とてしてこをり
あうひはれそはうづいあるのをはさう
ぬうてうわうさてけうまうてせはいさう
ぬるうくはゆうことをさも心うく

（カアミキカトニテ）
（院ノ字ノアルトキハスナハチミテヨムベシナキ時ハミヲ）
（大殿ノ侍ヲハ除テ書侍ハカリニ）

このこうこと実に行へどうきりあり
てはれうんりしめれまんよ一秋心とやけしそ
てはれうんれいるさ海とうていさうこようこ時こう
まうくれしあ紫ラ
くうるべくうしで音
ふうこうぞうかいかうきとごありて
さうぐこうるばさんん心ゲすこひしん
つもぐすとさうさ海よおそはれそんうや
えそとのこあしこ実しはれよけよいとこあこ
ぐこげよようつて限のさ海よこしはありく
あうという海よせんとそこ海どいて文
れはこうこあうこあうわうはれそれこと琴ノモトソラノ

だしもさう海じくてはるひきこあうれ院のうち
れんぐこ旨あううぎあう二条院よけどい系て
は院よ火とけうちうやうこうてせどち
おうてんひうあのはけひ安ふうとうあ女
れの赤も引ふはて紫ノ方へ
はしぐみ男陰姫しおうこ海さぐのけみどいと
おそうきとうやく系ふのとうるすき
れ心ふのも実しはわう文紫ノ長恋おし
おうこ海そこ系ふはてしいうぐこあきは
てあとあびはうんとえこあうぐ成あんと
わうしはれあんこうとの行へぐせれせきこあへぐ

孝経　至德要道第
小取享小得福大取享
大得福　光心ジキヤ

るしと云うゆくしくくかえて
そさわらも仏大是ハナリ玉ハヒトヒ
るへへくこもくもるとそていろきうつ
しれよいさいしいしそれよまるいせでき心
わうへしさうべきうそうさあとありてし
ゆこうよゆうべふりいとてしさうあうへと
くしくつるるで心ぬるくあうへと
ふうきいうあうりくあど仏神よ
もけれ心ぬもめるをうくつこうるさ海を
わうこわさもれれいそかうれのざうらよあ
どうてもらくくさかてぬうざうのやんとか
き侍あどいいとくそ弾まどくれけと

いときくよいとしいうくく心ゑるくれしど心紙
をうていのう安四せ美うそうようるさ海よ
こしれとさよ六い日ヤまのせて又とりわ
づいれといけとるくて月日を入れれ
いうよおそへさようるまどきれ心らにや
とそうるげくれりのけるどいて出る
もつるるやこ紙れさ海そこしうしこしぞこで
日よそへてよそうれさ海よのこみやしでと
もくるくるくいうくくそそよれ心のい
と海もるげうる海こうや者ハ中仏云
よるりよきこうれれ世よいとこて

くゝえられていとけなきのくらうゝ身にそへ海さらよ
つけてもゝこゝとのうかぬうしろさとそこい
ゝいてさえられにあるひの二文とうんえをりて
ゝゝだらの更衣ゝゝよおもしろ所ゝ
やをさうゝまゝアそこい出し法ゝ人ゝ
もゝべてのくよこいゝゝそこゝかゝいこよ
ゝくおそれどもとゝうゝこゝ方そ行
ゝうゝうしゝゝゝ

りしさいとさうよそれ
くあんつき院のうへ
くてくへをきしれやうそひとあ
ものごもりかくあくれくそを
しれうかど人のそうしくれぞそも
そうしらひあくれくさうそあで
くくくへの心やそをうをとさうん
を面やうこれくうまつるべさんとそさどしべ
あくれとのれをせて世二の文れ中くうを
ろやをくりを忘あどをいさ面うそあしれあろ
くのれをりうとけくへきくしよ

うしはうしいくどろくくけよあで
れそどとい義の実しくどそれとそ
ばやうわざあうくれとけうあさ形へで小
作法くいであるあけあそれとそれとさ
をきをうれて文いうやうようざうるされ心の
しくへでうらほくるうてさそはねをれし
文よくじけあくあしさせをとびくさ面
く院ものも内ものもまーくくあどそうはさ
てもさふくいうまうんとれていでよい
のれをりいでやうでいまそうのれいくい
あるまうばあどへでいとくれとか

あるやれ先のせとうのことを物とて
うれ院のことよ出て念はよ物て拍よ之るなび
さ海うげ中さ也物べきれ物れ見てとや物
うしし物ばそそうぬ中納言ナリニ
もやくうう物へれとへでうるいうくうや
物ぬやう物へいとうはごとさうよえ三位宰相
ぬるてるこ
よ物ぬううこうこと物いまでやうぐくう
ぐさぬのいまよけぐうさ祇てさ心の
うちよこことのうそうさんを物べく
さぐう物へいとさ物ける三条ラント云ハテラヌトし清定ミヨトし心く出べてよう
うきへいとおそろうくうしぐこいしるれて物
根本
紫ヘコキムラサキ

ぞりめず面しげうることもをぬべくそ
いとらくきて侍りや世中いふとつるなりさ
ぬとひとさきよろこんさぐゝめてもこうく
つるさぐりなりとくかの紙そよとの紙へ人よ
世ノ紫宴ナドニ
相ニテ了云
ぬとさきり紙へられるさ面とてかそうさいこと
よりうるあ紙へさうやいはんうしそのつ
れいそさ面よもはうこぐれうこうこ
なくてこそよそこくかこう面さんちい
やざ面よとゆづうまれしうこうこと
よさそこうこ実しもれうあしわいか
くれとこゝめごとよあんとこそくいこう

コレシミヨ人モトカメヌ意ストテ
音シナノ出ノナレル姿シ

ごうよろげよいうらへて面といさぐう
よるるされそさ面とそりなれ紙へられ心
ようぞうもあるぞあやしきるれそくと
うらけてれんぞぬ紙へんといさうよこうけ
ぬとうこうぐいとこわうこうそ実こう
そぐうりふよぐうりの紙れやつしよりはあん
弥仏ようもこうこと中いはこうわいこうと
いうぐきうぐとこうそこうこの紙へぐこうこそ
てあるうぐきこうこよいこうれぬわう
こぬこうへくこのくもよこうへていうぐくこ
の紙とえこるびこそぐりきうわぬべさ紙

めぐりてうぐらゐ院のおくしまさぬ東
くさ帳のめぐりよ人あゆくさふていて海
しのかたちよさきべさ人るべぞさふい
ぬへぐいうるめりとういまとつけぬべら
ひとわびつ年ぬるくとひぐよせあ
られこうぐてさきべうぐひつけ
てせうてこしとこせうぐろこびぐら
いうぐくやつしぬ海とよ
わが心のもいとくしぬとあしぐけら
くあらくこうぐるこもぬさべここ
とまでいえひもものぐてぬのよ

れそのつまぐらとうしそのタべれあ
うぐよとれよえひ出れれあうぬをそ
こけちくてうなりふとも中
ぬでいひとくぐちのれぬうあぐもやこ
れひ長やえうとぐえひ四月十
余日ぐうれとあうこそぐあそそ祇院
ようり祇女房十二人ぐとよどうよはあぬと
うへわくべあぐものがぐぬひけうか
どつわうんとえひまうくうもうぐよ
いと海あげして前のくいちゃやよ人
げうぬあうううちくさうぬひぐら

サイカリ
院
ツヨリ
クダビテ
ツヨリ
ツヨリ
ヤウ
ヤウ
ヤウ

れたもはごうつくしく原中おせやてよういぐさを
ろれぐ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

身のそうぬひとさくよくらゐおろさ心ざ
しとしるしくすゐかうこくうごう
ゐるし心うんようろげかうこいおさこくこ
ゑへくせどいうぐうりようをゐうりようをうう
身よそへてはおしくもつくもそつけ
くも長ようもいろくよつくそふのくまさう
よせきうるてうくあけおさ面とれら
じぜうれめうもうけくいとえやうかくこぐ
しうしたぐつこもさ心もさうよゐ面
ぐといひそのゆくよじくうりとあ
そよいとめぐ面しくおそうくそつ面く

へもしゐくぐ●いとこうろうしどせようあ
しおさことうもゐぬとがてうよあさ
けおさこれ心ぐくおうどいと心うくて中
くひいこうなう心もそつさゐれ義と
ぐよのゐくせいそれとうけゐくうて面ぐ
うんとよろげよ決しゐめこやいい
とそうくれうしてうんもうぐしく
さうこ決さてうぐうろこつあうろう
といなくてやうせてゆこうけくこつさ
ぐうけうこうんとこいしうどいとさ

物ト思ヒシ
キツト

しくらうらげ（宮ノテイシヤシメメ上モヨリ葉ニノシツボトヌテイシフロナリ）
れけるのあてよいうぐくえゆうとぞ人
よゆをゆくさうらうざ（柏心ヲ実夏）くこいこぐは
ぐもうをていたらもくゆてくしをりて（ニラツレ行テ）
柏
紅葉もせようるゆ海ゆぞのとうてや
こかぞやとまでこいこぐれぬぐっさうら
まぐろじうしもゆきを葉よこのてゆうし（葉ヲ結ンスサリウ猫ヲ柏ニ見メニウ）

サト會合ノ時獄ノロヲ（ヲ）ミレハヤナフス昂ナシ俺（ト）

こ猫のことらうらげよりかきてきうるとじ
文よ能んとそわ（猫ヲ柏ノウレテキメルト）がゆてきうるとえてし
とうのよをりてんとうて行よかどろ（夢心）
きそていうよんて（此夢ノ）何トシテマコ方ニ
つゆゆんとこつゆえいと

あくもしくうてえてれねよひゆく
じうてえてあ（ホシグトシモテ）ゆ（柏）ふくとゆ花くのぐれぬせ
くせのゆきうしざうるうとえてあせゆづて
の心ゆぐしもうけ（正心現）心ゆはあぞうえて行（茨ムウリ）
れえてかうしみそれたまと猫れつか
じきうータべのことゆおしゆうゆげよさ（柏）（先世ノ宿世ト）
うきゆうんゆとくはゆくらざうう心うき
ゆ（柏）ゆうけ（原）ゆ花よゆくいぞうふうしな
らんとなるく心がえくていとかさあげよ
ゆきれとゆ（柏心）ゆくうけうく衰とこをて
人のゆ間ようんのぐ油といぐつゆけされ

三四さうのけやくくうさうよいぞんこと
くゆくくうさいいくいくいく

（どわすれて　いとわうくさきれば海苔
うぐあけるいけのくしてこ心あくてし
くて　袁つう　羨うう　猶ヲ羨ミルフセ　ぐうらしもあしうもべきとく
いくまを　ぐへ　ぐうそうわこし　今えしいなしを
ふとし　ぐうう　ぐへ　ぐうてぐどうあうぐを　之出る明
ぐれ　秋の　元　ちわし　心ぐうう
柏　さミ方　めうそ　りえ　もしてれぬ明　音よいづく
秋間　ぐ　海　の　ぐうう　油　ぐへ　ぐうぐいきいてうれ　ぐへ　ぐ心
ぐうぐうと　ぐうとうぐ　ぐうよ　ぐうぐうあぐ　ぐあれて
あけぐれの　元　ぐうよ　さミ方八汐ヨカニ　ぐうう
羨　ぐうう　ぐうう　ぐうそもやしべくぐうあげよ

古今　ミチノク
アカガリシ　秋ヨリヤ　ヌミケン
我竜ノナキ心ケスル

れれぬ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
やうそ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
れてこ海　ぐ　ぐ心　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
うでれそ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐうれど　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
猶ヲミワルフ何ノサウカリシカアラン カ
ぐへ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐう　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ

ちゐもいとあるまじきことなれども
しるしてけく見やしたしかのまちもえ海
ざしのうらぞみたへばうしとのかちともうちあやま
らてことのやうしのあんようぐうちえんこと
少へよハ月のいるづつうちようんとしもうるうく
見るまでしたうのいちぞうきつこしよハあるぞ
こしもけ院よめをそだあるしもまんといして
おそろうくそづうしく見やしばあるさ
こゆしどそうしうづさしる心ぞんまして
うべく少へのうこあ
るしもしそこあるとうるとよ

打ひびき心うそ
やうきしもかこそ
とちしあるれ心ようづいまもんのこ
けうんやうよはどもくうづくあ
うしあるき一所ようるえめざあるいて
ぞいとにもしきあるうるとうづうれ
づうべうやまげるんとをうしば
おとぐやあていうづくれ心とたうれとと
ようちへてよいうとおどろを消てわう
と消てそこうしとうげうこともこ
え消ぞいとうくそらひこうりてうや

[illegible]
めるうし海をうらやましく
しくてうれし心ちのさ海なども
このごろのもそのしへ今さうよりかるさ
海を見てとうれしとそのかんいとけかちし
行ちかひてそのうしこしのうちぐうし
身ごろもかげをうつしぬさ海よりうるぞ
なつかしけれそさいかちをしかてんかど
こしかくこ後通ラ心さもうしかちぬしいとかく
心ぐるしく見さうれてうしかくこ人をうれぞ泥ぐ海し
く見さうんのえこまして中こうう心ちの

こ海さうてかさうう
ちうの日かどいぬんよりそひく立遊ら
れていそぐのこせどかやまげよそ
かしてかかりかかてかえとばいこ海りを
さこうさ海よりてのこ実してかさくうら
うけてもこしうりかてぞわが方よりあし
かていとつれくよ心かそくうち波ちうよわ
こべのうちかつひとこめて
くやしこぞつしこ
源ノ元サキノ
ゆうせうぐしかぬよこうもいて中こかり
世中こづうう女車ととうどとそれ

とよさてこれとやりのぬつれぐよ言
ぐく見ゆる女文もうらぶれさせ
さもうらぶれ行へぐ伊ごとこそうれるご
そぐくめざ風しさよ物もくぐそ
えまれうう女房あどねそよ皆出て人ぐく
あよのどやうれぐ井あぐてさうれとか
けうくいさ海さぐてもそうげてひも
うそぐよあてよあまあうれぐあぐ
くくぐひとさとよぐさわうそせよ
と花受也

柏

葵ヲ桂ノ枝ニカケタルヲ云
葵ト桂トシ モロカツラトモ云 此歌ヤフノ歌ノ文ト云

生生連枝ヲ云
ちまうれぐこうさそひぬ
ぐくとあぐううこうごとあうくぐ
ごの恋ましくうれて文かもうち
くうれそ恋げ心あく見ようよ伊ごとも見
れぬて人見うれぐさうよ伊ごとも見
われぐれ心もうれてわれうれ程の
心もとあさよげうれ恋くかうれ屋
うまぐ人ううさくぐううごのうちかさ
のくうけくいてまがくくうれもも
わぐいうぬれぐ日ごろくいさくうひまこ
え物うと俗よあんくかうぬそとそさ

ふうぎりの六月九日
さ海ごもりぎりの
り侍あしどもきべ
くしとさくぐと
ぞしろ行き海
らん羽さわこもものけれ
ゐるよおさとぞそと
き親だとそえ
れしぎりしわ
てけせたきれぬし
本線考ノ文ニヤ
不動るれけ
ものらひ

前六月イキ心スル夏ヨリ云シ

定業ノ
いのちに
ぞと

いるけでめ
よろ
てらぶ
原心
原ノルスヲ門ニヨリ
いとせ
ぶへいと
ぶよえこ
本線考ノ文ニヤ
しきと
ぶもな
ぶべし
原ノ
原ノ食ニ
ぶ
ぶ
ぶ

くもゆきてうしさてこそいうぶくてう
せられてへて落さうの孫院ひとろうれにて
上実人とのしと月比てうふくうしらびさを孫が
なるけるくつろしじかかぐくいそ紫ゴロシテ
ずんとこいつれどさそぐよいのらしうふ海
ぐく物とくぐさてそ罪業とうけうれいよ
じ今こそくいうじ
一人の心物ノ心ノ
ふかれじぬの心ぐるさとえこそぐさで代
かこいろうれるこさうようれどこ
つるぬとてこそとうけそのくけひさ

ざじこれ一ぬのけれさ海ぐこうろ
いるさまくしくつけしとそうこそう
このくぬもゆーうれじけるうのを
とこうへていさこそへてさ海のくしせされい
ぐ海ことよそれくようぬこうるるぐつ
なうぬのこうふうりうのさくへのおてぐせか
ふこいひ出うもの海のうとうこうのかの
ぐせよまくへのこてこんこのこよこうひ
出うれぬぐこんとンぐそうんいこうこうても
信
こんぐぐこさこの海へぐかうくこいくかさて
童ノ哥
秋ぐそ物ノケ言
如此物化ニテ
ぬさ海うしそれぐくそ海

かしこう志こ志こうゐとつくしくとかさ
さけぶゆゑさそぶめもらしうけひ
うゐ恵そ中しいとうしまくしうゐで
ゆいとそとこそ童門寺ものゐとそしいとう
ゆくくうでけすとゑんこのまうげりて
しこまれどうゐ迷途らこうとうゆれしでいう人永久シヤカノコトヲモ
までもゆくゑてぬやゆゑんゐこうつ
らとこゐ清しし心のこふかんこまるゆ
ゆうくそれゆうもつカガそれすよくう
ゆうて受てそてうもうどられ
ゆゆのゐそと心カガよくうそにくうしきゆ

とのゆゑそうしゑんいとうすくうい
うでゆきしよゑてとくのひかと
ゆきくくしゑゑとそうどう
ゆうひくいうこ罪業ノこゆのけひ
ゆしうくゆうけすうゆくくにくく
とこひゆうこいけしどゆ仏神ノよく
とゆあうこをきゆうして志ゑうきゆ
うそゆゐこうのようゑんきてゆうよ
しゆうしけつこうゆうじうのわこをせさを
ゆくそかうご弾とのこうこもゆよいくう
こうびくこうのほとけこまつこれさ

新宮 忍語七言

佛經塔寺僧尼俗

らようときこしめしてとうあく
りん中でもけをしつ実しゆめれ
えづくれはよくときうらいそもじ心つひ
れかゆえよかりしゆ思はりいのかつこう
わじべうんくごくのこととるべそせをあく
いとくやーきこしよあんをりうあどいれ
でれどめのけよじしいてゆ思ーれんし
ここここれどふうーこれてうへをで
えとここよみひてらてをりれどくをれ
よりりといつとせゆようらていこふてい
よあれくごあるとゆ思いてゆこてえそをの

四化ノ行者ノ封シコムシ

ミテトキニチアテシトヒル物ナズ
何シカクフニ思ニサニシ

人さこよ出れりうよ達ヲあどうてれこらよ
くくのドせをいといいうどさことをもを孔
いうこいありつうさいいくのいいうーか
ゆりこれあいそ限じんしばどうりりとうこれ
けどこれくもありえくくひゆりくくるか
らどえあどらねこうありよさこうよと
えあうこもありいうこくのいこどせよあど
ーてせのこのいとつてさどうこさくくく
ふーうんいまそ二石文てめれ見えしの
らこれれもあくありげよとこれこうつる
いえしとあどうこうさくめさくくる出雲略日

上ハ恋別ノコトニテ千心ハサニシテ

当生ヲ云ヘ

チルハヨソイトゝ桜ノメテタキ
残リナクチルゾメテタキ桜花
何ヒロ年世ニ久シカルベキ

祭ノ見デ
いとつてしぐるゝ
うしとなを大弁乳宰相
てゝるまひくるゝ
しのらけぶして
うゝべこと
あり
そこで大
くくのなさ
さしさ
うくゝ
れしう

余ノ後日シ
車ヲクミ入ルヨリトシ
紫後ノ子
ナギニ奏者モナキテイシ
恨シミテイ

のごして立出
人のドつれ
いさしき
あり
ぶの
とは
れきる
よ
ぐいと
そそ
なわ
さ心

源氏
ゆきさま
ヨミカリトテ
想
ものけ
やう
ぶ人心
ものや心
ものこと
ものしく
ものしく
ものいと
ものいと
ものいと

ゐまく母のたしなとて心ある所へうれと
めをとゞしくこうれて多り所へうより実し
やてとゝ（羽使ニテ主ヲ）ものさいやうざの例よりこゝらめつうさ所
なりつうとゆ房あるとい心もえかさあぜうぐわが
そしくさうぎ行りりうようぐうしもえのど
めぞ心あくうく寺さ狂てうんゝとさうよあん
くわし所へうより（れ）こびく実ゆべきとの所了
んのまうしひつぶれてうりれらうう（軍）籠（ハ鷲ノ鳥トモ又鳥ノカナシミノ鳥トモ云統）
なくぞいえ多うまゞくけていうぐうくん（シ又茶ノラトロヘ玉フ鳥トモ云シ）
も心のうちぞうこうぎこうりうくいさい
で所ての扱しもおそうくえてえくい

うゞさかうゞとたうてくうんとこゐてせ
所ううしべうそゞうよしくつけうしくのれけ
そひのゆーて世うりゆやうさゆのさゆよ
うう所てんと言りうよと心うれ
ゞ中天とおつうい寺ゆ所へぞけりういれ
うくいひりそゆゞせ身ハ茶モ作身所モ同前トシ
つこ寺きもしひぞうしとうべて世中
いとうくうれくんもうざわしれ中
れしりゆ流よそうしうう出所うしこと
といひいとうしゆこうこ（身所ト）ゆうよと
ゞそうくえうう（等）れいゞりりうしてん

（ソソロシキ）（ヤウロシキ）（現在ニテ分ニ）

せちよ　さうれて　いしことのちうもや
とて　ぢいぢ　ぢき　さうぢ　ときて　みて
ぢちうは　ぢさを　をう　ぢた　ぢいの　師　いしと
ぢを　ぢれちう　ぢ　仏　ぢ　ぢも　長　ぢたうこ
ぢこと　ぢまぢ　ぢと　ぢて　人　ぢう　ぢた　ぢこと　ぢを　ぢひ
ぢかて　ぢ間　ぢを　ぢの　ぢこひ　ぢれて　ぢかと　ぢけと　ぢもう　ぢ心
ぢよ　ぢ法　ぢ人　ぢじ　ぢ師　ぢさ　ぢ間　ぢよ　ぢう　ぢこ　ぢを　ぢう
ぢ人　ぢも　ぢて　ぢく　ぢれ　ぢ心　ぢま　ぢじ　ぢと　ぢよ　ぢは　ぢう　ぢて　ぢい　ぢえ
ぢげ　ぢめ　ぢれ　ぢし　ぢぬ　ぢわ　ぢざ　ぢう　ぢう　ぢる　ぢわ　ぢざ　ぢと
ぢそ　ぢう　ぢと　ぢを　ぢく　ぢい　ぢは　ぢう　ぢち　ぢを　ぢ人　ぢと　ぢを
ぢう　ぢひ　ぢう　ぢを　ぢう　ぢは　ぢく　ぢよ　ぢか　ぢし　ぢぐ　ぢき　ぢま　ぢで

ぢは　ぢも　ぢそ　ぢう　ぢし　ぢや　ぢを　ぢれ　ぢう　ぢけ　ぢる　ぢ月　ぢま　ぢど
ぢま　ぢて　ぢて　ぢう　ぢし　ぢぐ　ぢう　ぢね　ぢを　ぢの　ぢう　ぢき　ぢよ
ぢえ　ぢさ　ぢや　ぢど　ぢれ　ぢて　ぢう　ぢし　ぢは　ぢを　ぢう
ぢう　ぢし　ぢき　ぢま　ぢう　ぢた　ぢう　ぢし　ぢど　ぢれ　ぢう　ぢし　ぢど　ぢや
ぢう　ぢら　ぢて　ぢも　ぢの　ぢけ　ぢれ　ぢて　ぢけ　ぢく　ぢう　ぢべ　ぢき　ぢわ　ぢざ　ぢ日
ぢど　ぢよ　ぢ法　ぢ華　ぢ経　ぢ一　ぢ部　ぢて　ぢく　ぢや　ぢう　ぢど　ぢを　ぢれ　ぢあ　ぢに　ぢく
ぢし　ぢと　ぢう　ぢと　ぢき　ぢわ　ぢざ　ぢを　ぢを　ぢれ　ぢま　ぢく　ぢが　ぢこ
ぢを　ぢく　ぢて　ぢん　ぢの　ぢこ　ぢど　ぢ師　ぢを　ぢた　ぢう　ぢき　ぢう　ぢざ
ぢて　ぢて　ぢよ　ぢま　ぢを　ぢれ　ぢけ　ぢう　ぢを　ぢて　ぢい　ぢう　ぢく
ぢる　ぢけ　ぢう　ぢと　ぢも　ぢと　ぢ人　ぢど　ぢき　ぢう　ぢよ　ぢけ　ぢぬ
ぢけ　ぢま　ぢて　ぢど　ぢう　ぢを　ぢて　ぢい　ぢと　ぢう　ぢき　ぢ六　ぢ月　ぢく　ぢい　ぢき　ぢも

うしていよくよりあへどいとゝあくこゝ
ろのあげさうもかなさやうなる心ちに
しるるけしきとやうくこゝろ
世中よりあくうるんしわうとよいさうよは
りさこゝあるうまのしるしどうそうま
ごゝろあるをしかくこゝるれもんがいて
ゆくまなるべくしるしどいかうてはゆ
かどいうゝあるけはやいはよりあうてで
こゝさぐれうもけはりうめづしくこ
ゝりはよりはいてゆくしてゝ系院よ
このうさはもえうれしぞ姫えこ

物語通
やうしうしこゝとはえてあげさしうち
やそ例のさはもおこせぞるやまうくこ
はどかじうくこゝしあるぞうちあふ
月ばうやさうしめさぞいうはのとこそ
かうしはけうれ人ゝ思わりあくこゝあまう時ぐ
し美れ人ゝかの後モ見モフナルベシ
ぞうりかさこゝとよえうしうこ尾というじく
あうぢやし物語ろれ心よるさはもし人れ須しひ
うくじうやいあるうゝうやさなはあ
さうしぢかはうれ人ちよそうべてれ人
よいはさうてやぞうふしいさあくうちう

世三ノ物
世三
柏人カニトリ名トシ
柏
柏

うぐひすのなきはじめさうあるいはつれ心よい
ゆかしくもあるかなとこそ思ひ
はれしく哀なるはなくせうぞきうれはめとうら
うらこがれて慣のもとせはしともいとさ
ぬさうよりうぶやさうこうもうくか
やうはしやうてぞわうらはあまこのつ
くしつしそはれぐそまてそうさ
らやうもそのうしはあうらやう
ま はつうしうぐこそもうもうど
しあうらかくこぬうをちかくていと
さうらうゆしくてはとかとろへ

はつうしは文しさとはうくうらうげよ
せそうるべうはこやうはれぐつさかぐよに
なくらうらうげかうもぬけうる出のしか
どのやうはまぐいとうはうはうげはかそ
宇ばせそはしぐそうはれうつる慣れ
うちうこうへかくせぐばはうへうもさの
ふくはうはいまはて心とはけくう
はうう角うう前載のうちつけは心ちばけ
ううとはうははてもあはうまうて角はうう
とかもかそ地はいとはしけはそたち
その慣はは笑はうはいとはうや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なんとうぢひ給れいをさ海を半面なりやこて
給へてやうしこさしれいしとうもこだうりの給
て心のうちよい年ぢへめるこぐうもさうし
しあうさを不定真実ナト疑玉フ心しとよもやと考せ
じとよこもくものあるこいれらで
はでうらあやこ給へうさ海のいとらうらば
あうと養とこを給うり給うして考こさ
らてうちあれしうばふともえうれらで
二三日かくうこ行後ぞうるよつけ
くえさうしじれしとのこうさけうれ
いけのまりよけあうれしとの考ふようなへいでや

やとうぬせともうれとわぐさしのれあや
まちをうぬへくつ後ぞうるよつけ
てもしよらうさぐうれへもくわ
うあつうとさうあけうく心なやま
らていうぐきこもけうさでけてと
こせ給へうさいよのうさ海よわうあ給へ給
よへうまうぐ丹へてこせうしつう
さやこうそけこ心られいとぐいの考
きうとそ給へれぐ行へうぐけうとうさの
いとりげよ給ぞやそいうげうれぐへの
考よいとうこそこまていさうせて

侍従ハ

さりぬべきことしなどの
よくもとくしかれとでいたるものこそよさ
しきさまかけよさうつくしき二条院わらは
かれとていとあはれなる海松布かうこ
しめりそうしかれとまさしくこそよう
げうしとそそうやうよそたるも
今さうよいとやしくてうんいがくて
あしかそくめうとも蓑心とさかつる海
こかとしかれてんとうしひかれ例とかまいて
けかきさうしとおどもうちとけさ
うしかとうくうりてさやうよもこけて

夕やみハ尽タドくし月待テ
ひしかせコソハミモミシ

せうりかれとねとこそよれうちやうさかれ
きしと心しかれしうれまうしうちうかれて
かぬこうちうどあしかれかうれようそこ
しあとのごすうりうよりうよりうよりのの
恋やうよりうくよりどろきかれてかいこうち
こどくくうこうねかれようそれそかどまち
かとそ月行てきいうつうぬとといとわやう
なうさ海しての流しにくうぞうこそまに
もうや見そと心ぐうしげよ見て之と海
と行

夕雲よ袖ぬ
せとやりぐくのかくさ

引哥ニハ此ス
コメヤトハ思物カラ日ゴロノ
ナノタグヒハタチニメレツマ

蝙蝠ノ羽シミテ作リソメ
シ故ニ扇シヤハボリトス

くさくらん（ノ字ナキ）うつれ心よ
海をてゆく出し海てるしらるけしに
めてあかうつ（羽）（紫ヲ世ニ〻ステガタメ）やとれみあげさ流
（原）海つさと（紫方ニ七）しいそ（ヒグラレニハ人ヲ待リノ云ナスレタリ）くらんくよ心さ
しそはぐしのあ（原）ど（世ニ方ニ七）やそいて
れかさけかんも心ぐるれしごゆ流
ぬ（紫ノ方ニモトナクニ）つ心うくさそぐよあぐわられ流てれいぐ
ぬぐうあうかぐてあ月とのごりぬゆぐ
ゆきそこれ流よわうれんとそこうふ
き流（羽）べのうそぐうとおとうしいぐ花
ぬうくそあうれしてれあ（扇ヲ云）ざと流れて

（扇ニハバッキテ）（扇ハ瓜スルトモ本ハ扇ノ）

（世ニ乱ノ字）

さのふうて流てしあまれわう
とうらごゆうてこのあよれとのそう
まれ（ミダレル）ぬうつまうれさごわのうそや
ううかこのそまのきううそこゆ流
かよ心もうくいさいでけんぞうよかとこ
れよううそ花（香）ぐどとえんよとさうめ
きくううきさゆうう（ノ）ちくよゆぐと
うきくうとこ流ふよ海ぐうくうくこそ
（猶）ものよううとこ流ひしれぐこるどゆけ
てあそうくて花（原）これぐふとそこと心も
てぬよ小作流こつはけそきのふれあこの文

とうよしとていうじくしなつぶくとある
ものをいうのつぐるこゝろ
いでまうもろもろよいあるじていうじくさ
ふことのうちのんやくしあてぐんとこい
ろをそえて何心もなくあるものかり
わかいうけかうわとらしあてうれしあ
ぬんもこつけうまうがえそも心をと
まりてうれどよいとむげよ心にくさこ
ろけうさ雄をさ母とうしろうとていうる
しと云をいて行いめれど人ぐをうの歌
れめうよ俗ほうしてさいのふれめくいる

きさを拾てしけさ院のけんじつるあこの
多してをて行つれ安ゆしぐ侍さ母と
云て田のうぐそをよむうれどありさ
めうしいふいかのけさ母やとこをういづよ
うをとを拾てしへぐの系りしとなわ
ぐかようくさうみうとうきぐうのいを
ぐよ心のをうくうわ俗といをを拾しを
をう狂人俗うとうさを拾つんとあん
こをの人しと実四しぐいさとよう狂よい
を拾しうぐみてもえをきあへでう
しさしとわをうとの拾よしと

言句ヲヨバヌトシ

まして人こころもてうれしがりいづれにて
あんかうじうれ羽柏まいていつそどちらで
うてゆくさうそしも引きさえ抜とゆくば
とこまりまし抜しゆとゆくるよ（ぞう
ふしこのゾまうでてゆくるよ芸べていまけあき
れありう海そへ（ゆもうこさえ抜ゆくうこ
ビさぐうわせしくうこいるうら抜し
しうどうくまうそこ（コボトハゴ柏ノナカヅキ玉ハシトヘ不宜トヘ）りあ（ハシ
れうあまもしくゆ柏ノ先ニモ
もうくまゆ心やうくわくおそしうし待後グし
まうしうあういく（ハシ）もし抜ゆうぐうお抜

△是ニテ終

よのこゝぞあきゆいとあやまりげうて春ゞ
うのゆもきうあうゆ心うやまうく
せきを抜をとき年ゆ抜て今こゝとこうう
そて抜うう（ハ筆）あういよ心とゆれ抜へこ
うてう（ハ出チキジ）ちゝ（ハ赤心）いはゆこの抜あや
こう笑うゆしゞ人こゆこうそうう人し
てこ抜きゆう（ハ柏ナラテ）ぬ人ゞ（ハ芳達ノ）のうようれ中柏云れ
ゆよ抜うゆしてうきうこまで春
しうゆしゞゝゞ（ハ文）ゞゞいきくゝと海ゞう
ゞくゆあうぬゝゞゞ抜ゆう（ハ文ニテ）ゝとへてこゆう
ゞうこのう海きうよかゞうゆて心や

せうぬそらとうきたうしうことばいとこ
ろありて義うしどいとくさやうよいくく
ぐーやあるくくのかとそこいべうのくうき
ろしおちふこともそこーうぐ昔うや
うよこ四うのうべさありかのもとそざ
てそうさし四ぎくくうきうぐくのかきしよう
いくうきわぎうろうろうれくの心とさ
へこおくし紙けさそもばくどいうぐもそのか
ゆ四べこかぐうくこさ四のれ心ちもうろこ
このまぎれてうろうろいぞのか心うや
くくぐてうぐぞうきことをうくいろ

（源氏物語ノ文カキミ）
（源氏物語ノ文カキミ）

しあぐくこうくんよとわが心なぐしもえ
こうとそまぐくえやうとおとざうわのそ
きいとうぐかうろ心とこうぐぬくべよまう
こざ四の心ちくらうんとこ心づさあくこ
べぐそふくとまうてうれくさ四こよれ
四けあさくんの心よもいろうれみうどの
ぎかとちなやまうけいぐい音ばいろれど
それくまくこふくうう文づくんとひ
てうれちくんもおうぐえよあれたうまつ
行よそあづくさうべうさうつてい心と
うくそかぬのまうぎれ着うぬべきわぎ

なれ更衣しとゝへどこあるそらうゝ
うつけてうゝ(ソラ天)かつゝ人もいつゝ心ぞせるゝ
ぞともこゝぬうゝ(ヒトリアリテ)らまゝつゝてあもしぞなゝ
ふ(花)ともあれどあ(世ヲ分ノ)ばろけのさゝうゝいや
きゝ(ヒレヌ)ぬかゝていさてもまゝらふやうも
あゝんよふゝ(ヒレバアトモアスレズミギルトシ)ともかゝこゝぬまゝきゝれて
めゝし(ヒミ)くゝろ又ゝきゝ海よりて(ヒミ)かき
てゝうゝくゝのゝこゝひくゝゝこゝわもゝろ
(ヒトノヤリミナリ女ニシテキツトあゝ(ヒ)ミセテナヒ玉フ)
うゝくゝこゝげけゝきぬよゝひとゝゝんん
人(原シ)とゝ(ヒ)ゝそゝうゝる(柏番ノ)こゝといさゝまゝくゝひゝ
ゝゝこゝとうゝ(弾指)まゝこゝ(恨)れ(タヘバ)ゝこゝくゝきこゝ

(真実ハナノニ)ヲモテムキ
ゝゝとゝあゝ(ヒ)ゝけゝゝ海の心ゝゝ
うゝて(天ヲ)ヲモテムキ
ゝゝ人の花もゝ(ソサウ)ゝゝきゝまゝゝゝゝこゝ心
ゝゝこゝわゝゝゝの花ゝゝゝゝとゝあゝゝきゝ
のゝゝゝ(祇園言)ゝとゝうゝ(傍輩ノ)ゝゝゝゝ

イカヾリ遠ノ山路ノシゲキニハ
イリト入ヌル人ニドフラン

さて此ゑんかうへどもせのことそいとおそろ
しくてまゐりてきかやまちうりたちら
さいこうと云えそこのぞこひの山ゆこえもど
くゆかしきれ心もうごかしつ物思ひなれつつ
此へどもゑうこうるくさ海のこうりしだ悲しむ
きしめうこういとわらはそひと紫ノ御意ジイタ
やうみうぞ心ちうこうこひやうまし此うや
と云て心ちいうろうてすうそ仏とう
の方此ちやうしげよおこしそんこうわら
ア此のうしそいとあ紫ノ御ミ女ニシ
さうし何ちうぞうし此うしうど心ち

もおこせのどとものづうこうこうこそ
うちちいうびくれつこいきりりみれふ
こあうりけとうは尾のいとやんどとおく
つけ此へれどうへもうくゑうこうりうべし
うとうちうあどしあんいこがくいあくいお
がさんとのいとおしきぞやとそうめさ此へ
どの方しめうんうもうづうこうう
と云男此れうんそい心ちうこうあ引しと
ゑうこうがうぞきようぬさ海よおしちそん人
ごうちうぞうんとうこうこいとうこうくん
などの此へどげよあうちうこうこうんのうち

よハ五ゞ〻ゝ　さきそうれど　紫ノ　ゝ　ゝ　ゝ

拾遺

夏ノ日ヒ朝夕涼シ[illegible]モノシ
ナト武蔵ノ[illegible]ナリケル

てぐんだ[illegible]くらべけるくさくさ
さしよ[illegible]ものなりきけうれど分もこ
ゝろちらしていたんくさうあくえ四年比まあ
どのもあぐことのもめしつくり柏
なれつるあとへうちいこ海やうよえくとめ
うれ係きの義よあつくきとなさ海
てゝ[illegible]けのさめよ心とれをうていぐで
うはをもこゝろをを
月のやさ系ゝぐんも人めなやこゝくれ心
ゝも[illegible]ゝけんとのいうぐさかぐやそ
ゝぐそこよ心ちもいとあやまゝくて月

拾遺 一条摂政

夜ドモ三(寸)人ハシモホ(ヘ)デ
身ノイノメツフニナリ又(キ我

へも系ゝぐそうてをもきつこよはけろ
べさあゝひどこ系のいうぐようめろ心ち
ちれぐさくぐよくうい柏心もててく
えも四いでやちげやゝよ心にくさけてひこし
ぬくれわちちぐやまぐけいうれこそれもざ海
もうくべさことういうぐゝとめのこひ
ぬつちくさこうくさきうぐくいまぐこあ
ちちうこめてけこと海ひさ海ん人とこよる
うてあかぐちよあへつけをも海かゝきよ
やあゝよのさやうとてもひうちひこともも
ひきよあとうよあのくなちくくよれを

物語ヨリ後哥し

戀しさのウキミニギル物ナズ
又ニゼト君ノミミシヤ

さ海も立しぞうけさ
ともうくてうくいて
人のうもいうぐさ
とのの心ゆるしさも
文しいてらうげう
海の狂いと心ゆるし
つけていあやうくよ
しさのうくく受
ゑ知よつけてしひ
うれ恋姫のうかどさ
れというしよぞ中こ

少将法ノ心とき法
陽心
シナモフ説ニ
ナ三
ナ三
ナ三

もらはなどいひしかはすうそうよ心ひけ
こんへくまして心こころにしたうしたう
うらうけ所なくなりなばいかうとんもあれ
でもこさうやさうもすこさよとやと
まわ心づようねなやましいづうあり
くりと見えたるのかとぐのかたうわて
いろいろもあくかさかくらわもあれ
させよさそうやうてあいでれけ
しどくくとくらあうてられもあな
くよいかやうつうどにくき心のそしぬ
うもあくさわ年等あうこうはし

なくもてあうてそぐしけ無トカ心ヅカヒモナキ人トシ
しのあ所よ心あしくしうしうさ海と人よも
げさやうよもていうさうあうくよも
くしくれこれ又ヤ原ノトリモチニ所モラ
さ海よ高うてわが心とつくあうよいあさ
ぞううあどくいうようどなうこ
とうりうらぎうあうさうあうなうれで
かぐくくてうもくくといぐてもくてしい
あ所アルヒカトナキヒモ
せくもこひそばそうあうぐとさくいく
くうなまくいくくもあうて

まさかりとぎ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

そこつきおどいとおかしき所のあるさまにて
腰ノ
あいらはしきうちにはとりはなしぬと
の所をしらはよみへげよ
膳
ひのまづのよいぐはいとうしくへのし
れ浦よいうちにて東ゐ忘うよいのもしきう
どトロ門本ニアリ そこばかれ
さうてもいぐいとてあるこそやさにじの
うしうてきさしまきさ紛の御のとの
どいうくそぐうそぐづひれかりぐ
くおしげうう二条院よおくしぬそ行よ
て女恵もしもしくしじげよしめうしと
てうせきう紙いとくくうくそそげうしめう
ヌヘフナイカニヨクルト原ヲ
出来ヲクレシント原ノ
スカウミント

れうれげよ心づきのやうぬぐよ心ばそ
さ世中のあうさぬよくうこそくしつや
うかうよなべてのよれとうそもうるく
めよいいうしこさこさぐ花紅葉ニツケテ
うう少へともそぐさぐよせて表とも
ううつべきくく秋院とけ恵とそいぬう
うつうとうく皆そしきうそしてし秋院く
さいうぐうつとうて面ぎれのくとこな
いにしこれうこうれうこうれこうられくのけう
うぬとなうう中よかくくこうぬようそぐ
ようつうさこのうれくのれのぞいよ
ユニシテリ
大ニテ
足ニナリ玉フコト爰ニハジメテ出ル
秋院ヤ紛ナトニ

ごとしなりぬるれ女ごとかつて
じとよいとうしうべきわざうけそ
くせかぐいうんぬしめよそしぬわざて
かやのりよぬせぐうしいうん行の心づ
いしたらしいうくうう。（今ヨリハアダヤウニ心シミダマヒトし
又読ハあスクナキラ方此読ニロ）
こぐよ心をうぐうまぐき数ううれし
（原河）ういうくいうぐわしまさうくしの
わざやさぬぐよ（原ヨリ）（ナフシ方ニテカミシカハトヒヒシ）（原ヨナツテサヒシ）
しきりくぬしてしわっ文（紫ニ）と心して
ふしそてうう行ぬ（ナキ）れしぬの心をふく
うう行ぬうぐいとまあきぬぐら

いをしぬぐ伝ぐとし心かとかきうくうぐ
ぬしぬうんみこうらうん行ぬくうぐわくん
てんにうまぐくてせとのどうをそぐれ
（ナシニ）（二光アラニハヨキトし）
うんよううろうぬくいうきぐき心だせつけ
（ヲハトラ）
まをしきわいうう（ヲミノフヲトラ）うう限ありてごきぬう
うぐぬのうわいうきうくくものづ
（人ニ嫁スルコト　北宮ハ振セヌフヨシ）
（ソノ間ニモ）（男ヲモツ年ハ）
うきうけうれぬうとかぐ実
ぬぐ（悲ハ早ハ心）うぐきぬのかうしあうぐ
ごもせよう（紫ノ）（冷ヲ光）うんうぐわいうきをぬやうけ
ぐとうをいう（金ヲ）うんうそ行ぬと心かぐ
そうく心よぬうをてをこういをもぐ

こけりうくしの人とうやまりくい
まし給へんの事よさ海尼ノ装束ヲ給へんさ
うぞくかどまぐいうるれぬ程いふて
ゆくさきけさかどいいよめるあぜそれを
さを給へひしくぶらいい糸れいんじの事よ
ゆしけけんううるてさほうづくらし
て多賀宮ノ見ハいろうもけうとうべしさそが
よその心ゆへうせてをかどまて給ひのとこび
れひしくぶりとうとうとうくもしく
のくへりてあびてはまれくぐられうべ
きいまのの祝しそれはとひうくしりう原

凡本下ゆどのこともいとあびてわざとが
まくいそぐせ給りるくてやまれみど
のれ笑しものびて秋とわりしと八月は大ね
れれ美さ月うて玉ぶそのことこのひ給て
じよいんふうへ九月い院の月ざさき
れくれ給ふしの十月ロミナツキよと受て
まうくるを姫子いくるやこ給へどのび
ぬ歩給のれあづりの文をんそ十月の月よ八幡賀ニ集ハ給
くうの月きかとぐわらていうくこ海よ
ぬのさうぎしさとたうう給りくんの
ゑもそれつわで病中ナレトモ歌柏病中ナレト歌そうてそれけ

ふれるやまのしたくゐのみぞやまひづきて
れしそぐ（流文）もらしてゆをたれま
ちくいしとのこえしのみげくけうや
ゆんゆ（情）ゆ（月）ゆくさうれまよいとう
ちげよるくませい（原心）ゐ心うしとこひや
えれるくそわ（神コトハ）いとらくげよりるか
ふさ海ーてくるやこわうれといまた
こせんとなげうくてさ海ぐよえかか
げくいのうかどこと（紫ノ庶毛ナド）い海ぐれかく
てそぐ（流れ）い山（本）もやしうてらこと
くぞ恋しとこひやれ流月ひくうく（原）

そわうれしともあさくあさやうよんの
（集）そうしくれじいうようとれひつぶし
てせ中もかうこうようくえてさ（笑）
いのくれるひうれいれそのうろひまと
やしうてぐうまかまやそこざわしそ
のちうかぐそうぐれしーれんいそれれは
い流（使ナキ）んなきこと（曲夜）や山さくうんうぐしこ
（生ノ身ヒニハ）
ゐれしとかしひどよくぬれいう（世界達）ろこどもの
心ていいうろこうけうんようりまう
（集中）
かどのこやびとそこいかこひかどよ
（言）（沒）
もかうこうこぞうこと（ソラゴト）いひ出ろぐいも

ミヤビ　伊勢物語、アリ
日本紀、凡遊トカテ、ミヤ
びカニメハヤギ心心、

何年モ

世もうとさえそうしてもこゝはやうなる
とそうしてせうれど、行はいとゝしたいるし
ぐるして文よばれあこゝはやうてをうを
かとくおうしまやそ行うてこ行そのこくか
何モ同ナリテ
くてもぐしくもやしぬ行よばつかくて
はし年月のるうん長ぐうりうもやこ行ふ
なうさ海いくうしく実しのう行へそのつる
でうもえいやうう
中ヒトリ寝シテ
いうぐ世中さびしく
源ノブサメ
かもしぞなうこうりうもあびもぐし行
源ミ
へううしげるうりうきかぐばうけて
こうりぐかよはのやうそいとえかとうれう

わぐよあんなどとへ実て行うふとく
源心
柳ト也ミツリテ
かしく心ぐうしくうう柳ト
寄ヨリテ光ハナテ
源ブサタ
こうきをばよしうあそべきよはうぐわがとこ
ううよかいるくのこさうばそんことと
でうえうけうばけてびれうといぐ実
源心ぐうきれをうそこる源うそとう
源心ハ
サニノハメテキシ
サニヲ源心ヲヤウ
しくしかもしぐそよひおうとうれ
源ノブサメノヤウニ
朱サエル
源ノ
とうよのこうこうじぐうはうぐとそ
ハタカイシウラン
ぐいはしさうがやしうようんとのよ
よさうぐいてとはしさ行へうれそうこいて
らうこばううつうやそやこひうう

し給ふいとおしとおさなき
心ぞへとこそ思ひ給へ
ぐ申し給ふ事ども
今ゆゑ恨もまゐげ
でおしとゞめ給へど
うしめそんこゝやそこ
ぐるまでやしてゆく
なくくへのおもふ
うゆる心よいとぐ
ぼし給へこゝよの
さ海もあるべし

給へ
ぐ
ん
もゝ
ぐ
よ
は
ゆ
ま
ま
ん
雅
い
牧
心
か
ゆ
ゑ
ゆ

てをんことはあんのうえさいんよってえ
なんぞうとこそいしんごしゆうけで
あらそうかぐしてうろもはるぞせけも
くてはまくこうぐさんどこころぞ
そいはれぐうつのようのごけく
くしとこをさんべしそのかくうれも
はんよこてびてりたよををてん
もおしうまのしさよしひだようにく
ふとやうくそぐこうい仏陀のはよれの
うんくしくもおとせいとあしくと
ごうまもはてゆいがそげよのこそ

こうよんこそこうよんこそこうれかりあて
心こうはかひせしいとやそこうこうは
らぞ悔のよれはこうはけあんをつを
ておそうこうんうぐまはよそれくいは
こはそひどけくぐくおてけはよ
間のこあらて材ものぞこいこうそち
こそれぐうれもはらあきはてんのうん
そもおどうくきこいしうぐのう
さんよ余ようはこうこうこよそはうう
こそれはあこあやこひしくうふきは
心そうんこうはらはてはは祝いきこせは

てをつくしてそうこうの
ありさまどもいとあはれにきこえさせ
ぞうれこの内のうつくしうてゐてすこし
しつまりぬるよりはかなくうちとけ
よいとしのくれぬるよりげに長もあめぬべけ
れどとしごろをへてうせにしかの糸
はうんといけ月うしてをぬこのあれにけり
りひとうそ多りかりとあるやうにきこえけ
ざ内へそらみつびかうんもちらのう
ひらきりうれ月にうづれ月つう年
れいとうらいとぬさいづまいとぐれけせ

ごくもこぐるしくはかなくうんとこひられ
どうちとそさのこのゐべさとうやいびう
しくゆきうこぐれぞはかさうはもて
なしはてけつくもやせはてるけくろひ
はへなどいくらうとうそごとをすり
はへ歩つ書とばかよさ内のこうもゆへあるべ
きやうつよいうぞこうさうまつ
しはつてのはるせはてとうてさうれ
せうそこもるへうやしとうんとあば
せどうんよつけてもいとぐかれぐきさう
いうづしくうんへよいまうさ祈心もこぐる

ぞやと思ひ給へ侍れてやうやうて月比経ぬ
しぬとも思ひ給へ侍るべきの人と仕例か
らぞ侍るやうにて院よりとかれわそびまど
なきこうしたしたしくしたしくいとうとく大ぬ
れもぞ侍るやうにあるとうべしそさりのい
さうそてわが作さうにさうしてよいそのじ
ぬるやうにうへとそひとれどいとくさぐ
しよりなきさぬうへといこいられし
ざりけりしはすのつごもりよりて十余日とさ
ぐてまひだうしこのうらゆそうて
のくまつ二条院のうへくまぐまうられこぐ

りをさきづくよりてぞえこづあそてわ
うあ物へ女はれのあもも墨よおうしぬそしさ
びのみこいへ人のとこいうそあへかうしまうしりる
そぐぐくとこかしげしてかくしそうとぬうし
もてあそびまうあれようへうるよしひのき
ふしうれしくえされりうこぐくよおおん大殿
れ少しもれあ物へうへ大ぬのあらしごの
まうそてまづうらくのやう
よのうれあそびうしくれうれぐうれけう
しおまへのりのいこれしぞ赤雪とうとと
れありもまづうらせざへいとうへなく

六条院、

御れ産ノ事ハ元年ニ宮ニ出れ産ヨリスグシ六条院ニスシシケトミエメリ

寂寞

きうくしうべさうにもくあやしとう
うきめべさこと　不審ナト
うれど多う物べさよ
うりうとをもくるふりして多ぞ
さういてこうこうけうやまいもの
らざうとそふ心のうやと心うしく え
てうわさてけせうそこけうこそちかて
ごもかどうかジライ　羽　野ノ
やうよ院うもさうめんとかどろくさき
やまひもあうぞそこそけて多う物べとそ
のうれようくうてのあへれど今こ
かうくあうぬと達するどもまぐつどひ

ねしとりにてもチブカメ
ねうう何のけうきこそれら
よいれ物でもやれこそかうてかうぬそ
げよいとくやせくよあとこて何もか
うよをやざうくいかこうこの道
よいてけるれていよういをかよげ
やうさ夜ぞこうといとぐうそさふ
ひかさ夜かどうはかこうれこそよ
うかべうんようこがうまぐきと
ぐのさ夜れもくいてこひやりか
さそいてつゆうさうれどれかこ
まれどさわげかくいとうしくそのこ

ごとくて射面もいとくるしくうらよりて
月にいまるものいやうざとはしあつらひ心のこと
面なきさまは隠のはぎのうち寒よはしぶ
みこのほうじたうまつぶくいうしば
月くうでこのうこのとこげしてうく年も
なつれどえそいのごとくもあへでこれこ
ごうこうんいもめのれたうたうあるべきとれはぎ
ゝんごとくこうこやうしどいたよあひい
づわらこのうぞのうぞあくうりとれら
じせこんこてまいかどうこうこうこ
しそれことどうよりこんとて拍よこて

のうんとまこうこれしよくとこひうづこ
よてうん月にこふふひやしぬ仮もも
てうづうこのれけうこのうかうかさやうか
ふ地うこいこうこうこうこのえこ
うんとこてこれこうこもこみよえ中こぞ月
にうこうこよこうかやこれこうけこうう
なげさけううこのにかいうう何しわ
づこけうこうこうこうこうこうこうこ
うわづこけてこうこうこうこうこ
こもけうこ月にようへてうこけりて
んにかこうこせ中こうこう

べうてこりゝ侍
なりゝ人ゝのようさぐしうまつるべ
きようしらぬのおとゝ
しとうゝ教仕ノ表奉リテ
てゝ分うてそこゝにけうまうんよりけ
なしげよ下らう柏ノ賀
而侍ん之心ぢ
うゝしこの侍うぶとあさやまひとなひ
うけてゝ分ん柏ノ賀ノトキ参リ給フミ
とうそうゝさ海よそ
ゝうされよそひとまうらけまり給ふんと

ゝ
ゝ
ゝ

心をすびぬれこと
もづくれるのと
そうそのへ行くと
うろ心づよさ
しもなん心づひせ
たよこいてまつ
くくへ行くゆの
がてこうとこと
なりかどいとうつ
りこまゆくく
ぶくうてけれ

いかさくなきうう
いと心こでやそいとうこて
今八出家ニ
さそそてうや
をさうしを
ん心づひせくさうれ大ゆとゆう
ミハトモテ
べのようい心ぞへ
イケシラ
楽人ナドハ
ゆのこでわ
コヒウミナキ
はおしさの
ゆひけうとう
ゆ
けまそそこと
けまへとくうらうんとうへば

例のやうよこゆやうもわでやうくうへ
出ぬひへのかくうて大ゆのけくうひ出
表ノ方
行くへまいへのさうぞくれとあどへと
柏イケシ
こうひくへ行あへさうざういうくけく
イケシラ
ひくへ行よういとくうくうひさ心ニうひうゆけ
柏
よけをくてあうくゆひ行ゆうをへ
紫ド
うう心この日ゆうひどれけうくゆこれうんよ
こ所ゆくいけうせ
赤
ゆとうれれ笑の日いゆう
菊ゼ
ゆ
ゆ
ゆ

冬ナガラ春ノ陳ノチカラヲ
中垣ヨリノ花ハチリノ花

白ハ梅ト云梅ノ花ノコト
ワレモカクレト初テナガメシ

るこのけうどのよつでさいらうとゞく所よ
て山の南ぜをたちわけ前よ出る狂仙遊龍 樂ノ名
と文ものぞいて宮のくぐいさいらうよ去
のこうらいく稱ぜ今さいらうひゆうて
ゆくさいらうのいさいのこそれいらよおこう
まゝ武ぜの文ものかくだりさいらう沉
てそれいらうものこ上達ぜいそものこよわざと
ゐぬ日ぜとそれ出あるぜ度ゐどけいらうき
狂よけうまうなしいらうものぜ大原ぜ四郎
武ぜ大和原の三郎武ぜ妻ぜ文のそんもらうぜ武
ぐらうちいぜ厳ぜ原まぐいとらいさう狂

そいとらうこけうぜ四人ぐらいづれとか
くさうさ変のこうそうそうかうけよう
づさそぐうそひかしもやんどのの文大
ねのぜ日向のそけどもの二郎武ぜ妻ぜの文ぜ
名ぜのうとそしぜ今し原中納言ぜ
白ぜ麻章武ぜのぜいうのぐ三ぜ武陵ぜ大和原
ぜ六郎武ぜ落蹲さそいうい魚いらく花
樂かどてまいだとゐんかかぐれかうい
ぜ武達おそれいらかぐまいりうれも
けどこそあげさぜ沉ものけうぜ沉さうよ
いうつしさいじまごの武君ぐられく

陵王 落蹲ハ舞ノテミ
シウロこ中西シキテ舞シ

カヒヨシトヲ物ヨリモ酒ノミテ
醉ナキスルソノミテナルラシ
世間ノ道ノ道ミシラスハ
醉ナキスルミアヌナルラシ
タヾミヤテカメテスルハ酒ノミテ
醉ナキスルハ猶シヤスナリ
サヤエミ上ヤモヲナニ夜モヲスヘ
スクルヨシヤアトモヽカルシ

らせごうてきうい
けくしてはゝ師ごもくとのくてのうぎちと
をへ中しらるよやうきうどくくしさとく
えてやづてよまいはといづしともいとら
ううしと見せかいはつる上達アうちいうか
間かうしはゝ求アのまもはしまおごと学して
はゝ肌の文づてきまでもわるれはあるしは慌
ぞうよをひこをえていおいかいそこでは
ごつきわごうろしはゝ猪心とぐうそはく
忘まうくよいとくゝ心ちづしやうわうもいま
ゝぐしうえさりさ海よゆゑ年月よおいく

えのごれぬわごうれとてうちうやうはふよ
はゝ
べちけよまわごちうて海とよ心
らしいてあやまうれでいうごすいこともあ
みもこロキニセ
もごでまうぬ心ちそうへとうもさうわうきて
そうえひしてうくの於ゑちれのやうか
はゝ
はゝ
はどいはゝでひひけふれてさうづきれわごう
ちもうしらうえやしでちうきごうり
そてまきうこせとはゝしごあてかゝせ
はゝ
かごくびくるる於へごちうこあても
てうづよき海ちべての人よにぞおう心ちう
はゝ
きこごうてうしうれでまごともこ

てぬよまうでぬわるまうよいとくまぐい
て何のいとおどろくさきこそひるもなぬ
といふうれぐるうるまんけまうしとぬとて
るよけのはげりめうやいとさいてみどり
くもをうるれとうぐうこひうるぐのの
ういのまどひよしもわるうやそいとい
うるぐひはかとぐとく心の方をうさぐさ
てうそくうそいてはげうとて度
わうしうりはとかの方をうさ由みいと
心ぐうしとのくてそぐを身沮い心のどうよ

酒三ヨハ

あひかぐのこうそいとうもあるれ心ぐうか
れどぐとくとわうれるうべきうどぐうやとお
うとう表ようあるくとうれて方うあげうん
とのうくじけなうきというぐとうて母れ息
形もいというぐくうげきれてよはとくし
てかやとばはうるれよとうきなうてうれる
らひいこあうりうもうもうもうれれく
ぬそ何のしうるうれくひきわれてこ
しわしはまでもそうれうんが心げく
しううべきこと方とぐ実うてうて心
三ゆへとれうこうよれ本帳ぐうとへぐ

今ハ限ノカドテナリケル

てこそ有(得)しかりやうぞうぬまして
とまびごろきれかしいよかはこるゆうさ
はをうてこそふこそうよいふくせよはて
（前者）いかきあれ頭もそうこんとしくく
なりけりやともやれんぜやとそこさ
まへつれいというしくこうりはしでふ
き心ざしこそでうよほんじこそられぞや
なりはうこんとこそ物つうよみこはりぐ
き心ちもえんゆきやうまじくこい必へ
りてかどうこそよりきはてこころもえわ
うれうひじんぼ小うしろうくそして

なのどうまづこんといこい物まじきわれて
心ちもそうこ何うぞ心がそきし時こはまき
のかうまづうわきて本しくもきめも
こくしそこし物へいこばつうかきこと
とうこそこれしもぜいこしこしうこへよ
ときさうけじゃうやうわきそこい
かいうとこうしくく物てこぞ
しこしぬとぐこうきゃよこ必へじちれく
うぎゃうえゆうわうしもこしこぞこんつこ
（柏木）くくぶせうこしこのこなくゆせ
物てぐいとこびてわうこ物てれこんぜよか

らぜまく対面されぬる人やとくゆくとも
うなるなどして法とよろこばれてとろまば
ゐるこゝろもつんそくやしく侍れる
いのちれ程をこそけりそゝかぐやこひ
侍らるゝくゝ柏文京 ゆきしこゝ海
を出てふるかく覚こゝれるも大原よ
まちうけまし給てゝろけよさもきゝ
ざるいうちまちるなどろくゝもきれ心れ
煩三毛 さ夜ゝもゝぞ月ばゝかどとさゝよ系
ゝろるよいとゝもゝあきかうじかどゝ
よゝれ給ゝぞゝでやうくゝゆよひきいるゝ

やうよゝし給ゝる時のいうそくれくゝゆゝし給
ゝぐ世中ゆゝこゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よ系ゝ給ゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

北とのくるひ沉よりやとりつゝ
今ぞとうときはいかなる
つらにかひそめをさまでさやうなしど月
くよこぞうつることゞうあるとさんや
心まうでさことなれば、いぞうい芸てこで海
うんせ文のれ心北らうとぞとあしくこそひき
てさ北沉何のみ千寺（五千賀八十寺四千賀八四千寺何し）れいそ弼又うれおて
しぬせれ（仁和寺本尊ハ大日世摩訶毗盧遮那ハ大日ヲ云）寺よもも海うひうさしかの

（来り光ヲナシ）